

各務原市民公園リニューアル整備基本計画 報告書

この基本計画通り、整備するものではありません。
予定している整備内容については、プロポーザル実施要領P6の
「(6)市民公園リニューアル整備基本計画について」を参照すること。

「市民広場」=「芝生広場」として読み取るものとする。

令和2年6月

各務原市

目次

1. 業務の概要	2
1-1 業務の目的	2
2. リニューアルの背景	3
2-1 歴史・経緯	3
2-2 行政計画での位置づけ	8
2-3 背景のまとめ	12
3. 公園の現況	13
3-1 施設劣化の状況	13
3-2 施設利用と市民意識の現況	20
a. 市民アンケート	20
b. 関係者ヒアリング	29
3-3 未来の市民公園に対する市民意識	40
a. 市民アンケート	40
b. 市民ワークショップ	43
中間まとめ：2及び3章より得られたリニューアルする上で考慮すべきこと	47
4. リニューアルの基本方針	48
4-1 リニューアルの考え方について	48
a. 基本コンセプト	48
b. 基本方針	48
c. 周辺環境との関係性	49
d. ゾーニングの考え方	50
e. 市民公園と文化施設（図書館）の関係性	51
4-2 公園のつくり方（ハード整備計画）	54
a. 全体計画（ゾーニング）	54
b. イメージスケッチ	60
c. 主要施設の方針	68
4-3 公園の使い方、育て方、伝え方（ソフト計画）	80
a. ソフト計画の考え方と進め方	80
b. 市民と協働するパークリノベミーティング	82
c. 波及効果と今後の方向性について	90
5. 基本計画図	91

1. 業務の概要

1-1 業務の目的

各務原市民公園・学びの森エリアにおいては、民間活力による新しい公園の活用により、まちに賑わいが創出されつつある。岐阜大学の歴史性を継承しつつ、「緑の中の賑わいのある新しいまちの顔」となるよう、エリア全体で一貫したコンセプトを持った取り組みが必要である。

現在、両公園の間にある臨時的に「那加福祉センター・勤労会館駐車場」として利用されていた区域については、学びの森への編入を行い、「P-PFI 制度」による事業化を推進している。

一方、各務原市民公園は、岐阜大学時代の歴史や環境を受け継いだ文化の香り高い公園として、長く市民に親しまれている、本市を代表する公園であるが、開園から約 30 年が経過していることから、施設の老朽化に加え、公園を取り巻く社会状況の変化への対応など、全般的な課題が表面化している。

更に、公園内で移動式スクリーンを使った映画の上映が行われるなど、利活用のあり方も多様化してきている。国も、今後の緑とオープンスペースの政策において、「都市公園を一層柔軟に使いこなす」ことを重視すべきとしており、利用者が公園に求めるものの多様化・複雑化が今後更に進むものと考えられる。

このような状況を踏まえ、本事業では、各務原市民公園に関わる多様な主体が、それぞれにリニューアルの意義について共感し、供用後にも積極的な関わりが持てるようリニューアル整備基本計画を策定することを目的とする。

2. リニューアルの背景

2-1 歴史・経緯

a. 近代以前

現在の各務原市民公園をはじめ、旧那加町有地の起源は古くは織田信長の時代に発し、信長が郷社手力雄神社の社領に付した地が、その後江戸時代を通じて、更木郷八ヶ村（長塚村・新加納村・前野村・北洞村・西市場村・桐野村・岩地村・山後村）の入会地として共同利用されてきた土地となる。

この入会地は、「各務原台地」の上にあり、強い酸性土壌であることと水を確保しづらい地形により、作物を育てることは難しく、部落の共有地として、緑肥や秣の採集や薪炭を入手する土地として利用されてきた。

b. 明治以降

明治維新以降の地租改正（明治6年、1873年）により、官有地と民有地を区別することからはじまり、部落有林野である入会地に地租を賦課されるのを恐れて、各地方の入会地が減少していくが、八ヶ村共有地は民有地のまま続いていく。

明治22年（1889年）に更木郷八ヶ村が合併し、那加村となる。旧更木郷八ヶ村の共有地であった入会地は那加村有地となり、那加村が自治法人となることで、旧部落単位の地方自治は認められなくなる。旧更木郷八ヶ村の各部落が法人としての機能を失い、部落民がかつてと同じ利得を受けられなくなることにより、入会地の性格が変わっていく。

共有地時代の入会地利用については各部落の代表者の協議によったものが、村有時代に入った後は村会の議決によって運営されることになる。明治42年（1909年）には、村長提案による村有地の一部に対する耕地整理の施行が可決され、耕地整理施行区域は、字名を「各務野」と改称され、那加村市街地発展の基盤となる。

大正8年（1919年）～大正10年（1921年）にかけ、高山線敷設のための鉄道線路及び停車場用地や航空隊敷地として、村有地を売却。大正10年（1921年）には、岐阜高等農林学校用地として、村有地を寄付。村有地を寄付する代わりに、県が寄付採納した三柿野の土地を那加村の村有地に移すとともに、不足額の補償金が支払われる。



各務原台地



明治24年(1891年)測図



各務原飛行場（大正6年、1917年）



大正9年(1920年)測図

c. 岐阜高等農林学校（岐阜大学）時代

大正 13 年（1924 年）に岐阜大学の前身となる岐阜高等農林学校が開校した。敷地内の土地利用は、東西軸に沿って建てられた校舎等の建物配置が基本的な枠組みを形造っており、北西部分にはグラウンドも配置されていた。昭和 3 年には構内東南部に和風及び洋風の九二八（クニハ）庭園が造られた。これは現在の市民公園にも引き継がれている。

昭和 24 年（1949 年）国立岐阜大学が創設された。昭和 27 年（1952 年）には岐阜高等農林学校が廃止となり、合わせて岐阜大学工学部が設置された。キャンパス内には農学部に加え工学部の校舎が建設され、北西部のグラウンドは敷地外に移転された。

昭和 56 年（1981 年）大学本部及び工学部が移転、昭和 57 年（1982 年）農学部が移転、昭和 58 年（1983 年）那加校舎が取り壊され、市民公園の建設が着手された。



大正 13 年（1924 年）高等農林学校（昭和 9 年撮影）



昭和 7 年（1932 年）測図

d. 市民公園整備（基本構想）

昭和 57 年（1982 年）10 月の「岐大公園計画基本構想報告書」によると、第二次各務原市総合計画における“将来都市像”とそれらを支える“基礎的条件の整備”について、市の将来構想の中で重要な役割が期待され、以下のように整理されている。

- ① 市西部地域の都心的性格を持った拠点地区を構成する
- ② 緑のネットワーク拠点となる
- ③ 交通・施設ネットワークの拠点

大学施設の解体時に、南東部の庭園（九二八庭園※）や正門（現存せず）は大学関係者より記念物として残すことが要望されていた。植生についても既存樹木を活かした計画とすることが示されている。

構想の基本方針については、以下のようにまとめられており、市がイメージする新しい都市像を体現するシンボリック存在として計画していくことが示されている。

1) 構想のイメージ

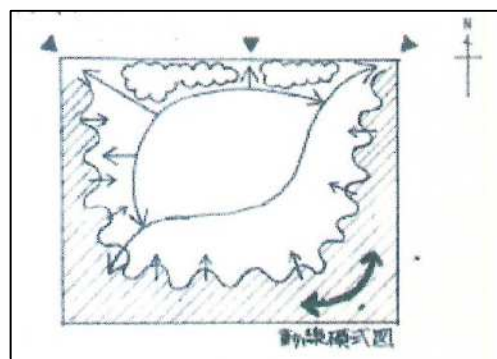
- ① 将来の各務原市の中心市街地の公園
- ② 都心の顔となる公園
- ③ 各務原市の施設ネットワークの核としての施設地区

2) 構想の骨格

- ① 公園としての整備
- ② 広場としての整備



昭和 45 年（1970 年）測図



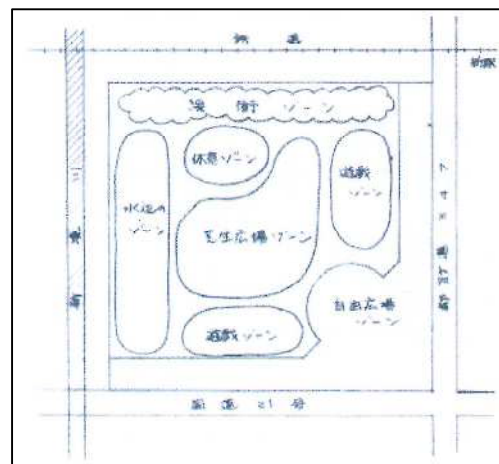
基本構想における「動線模式図」

※九二八庭園（クニハガーデン）

秩父宮親王の成婚（1928 年 9 月 28 日）を記念し設置された沈床花壇。その後、岐阜大学の遺構として保全・整備された。

空間構成は、市全体の東西・南北軸の交点であることから、東・南・西面は大きく開いたオープンなイメージにし、北面は鉄道及び北風の緩衝帯と位置づけられている。また、公園中央には十分な面積のある草地とすることも示されている。

なお、将来構想として文化施設を設置することが前提となっており、規模・用途が未確定であったため、計画の余地を残すよう配慮されている。また、敷地東に都市計画道路（都市計画道路 3.4.7）、敷地北東に名鉄の新駅が計画されていたこともゾーニングに大きく影響したものと思われる。



基本構想における「動線・ゾーニング」

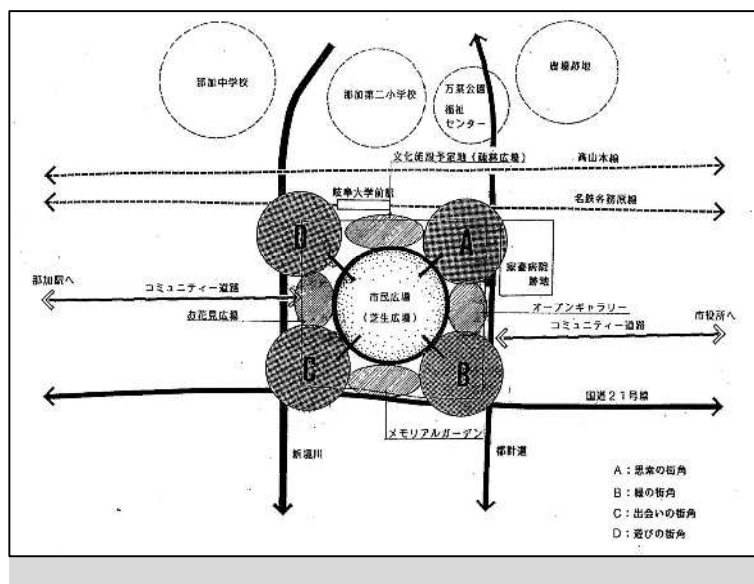
e. 市民公園整備（基本計画）

昭和 58 年（1983 年）10 月の「各務原市民公園基本計画報告書」によると、計画の前提として、基本構想で整理された市の将来構想での役割において、「文化活動の拠点」となることが追加されている。この段階で公園内の文化施設は、県立図書館・県立文化会館等の誘致が検討されていた。

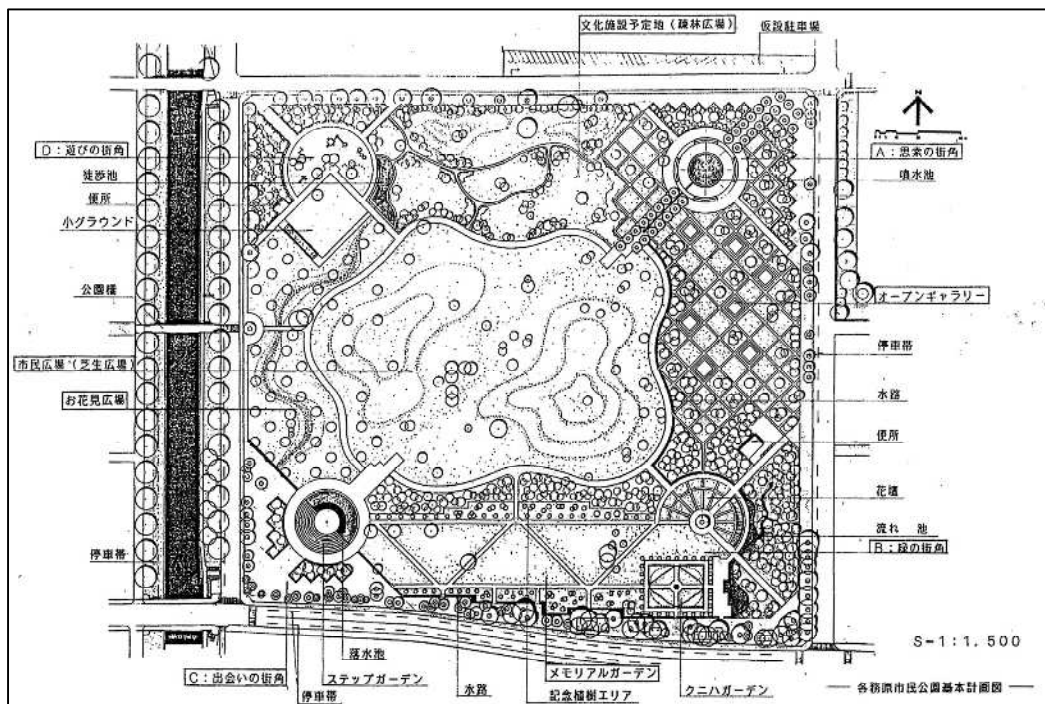
計画では、周辺環境の調査・分析をもとに、市民公園の役割は、市の都市景観や歴史性を象徴する場として設定しつつ、防災・レクリエーション・環境保全機能を期待している。計画の理念は以下の視点で整理されている。

- ① 各務原の歴史と未来への思索
- ② 自然の保存と創造
- ③ 新しい街づくりへの寄与

ここで、現在の公園の骨格となる「大きな芝生の市民広場」「四つの街角」といった空間構成や、既存樹木やクニハガーデンの保存も提示されている。また緑の効果を高めるために噴水等の水施設を取り入れる方針も示されている。全体のイメージは、開放的な草地と水があること、シンプルな形態であることが基調とされている。このような基本方針をもとに、公園の全体構成が設定され、各広場の性格やイメージの概略を示す形で基本計画がまとめられており、現在の市民公園の原型を概ね把握できる内容となっている。



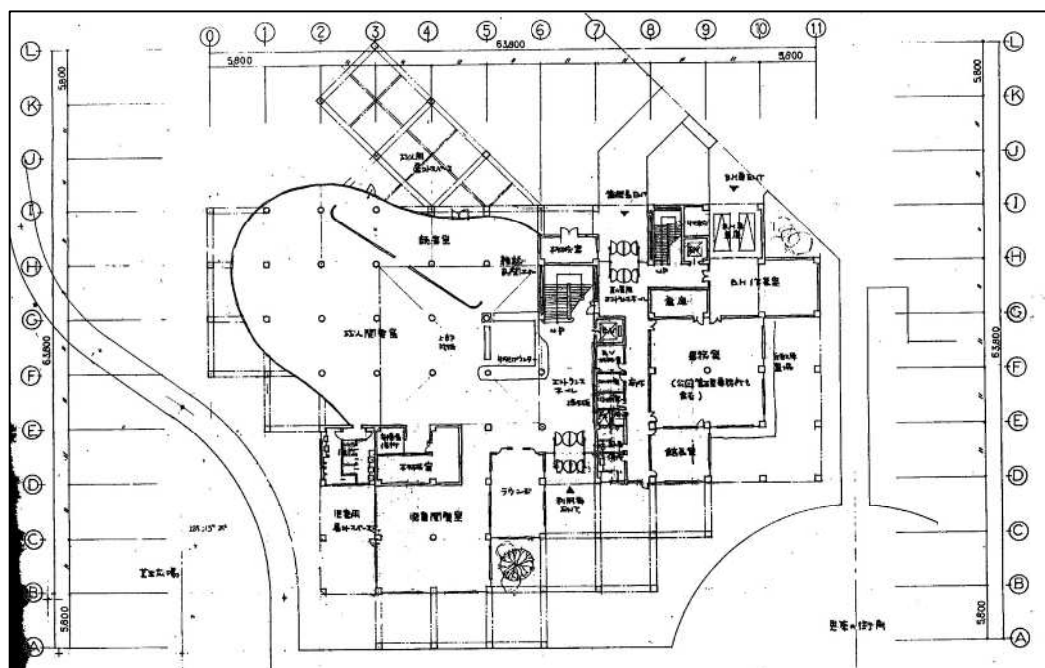
市民公園空間構成模式図



市民公園基本計画図

f. 市民公園整備（基本設計）

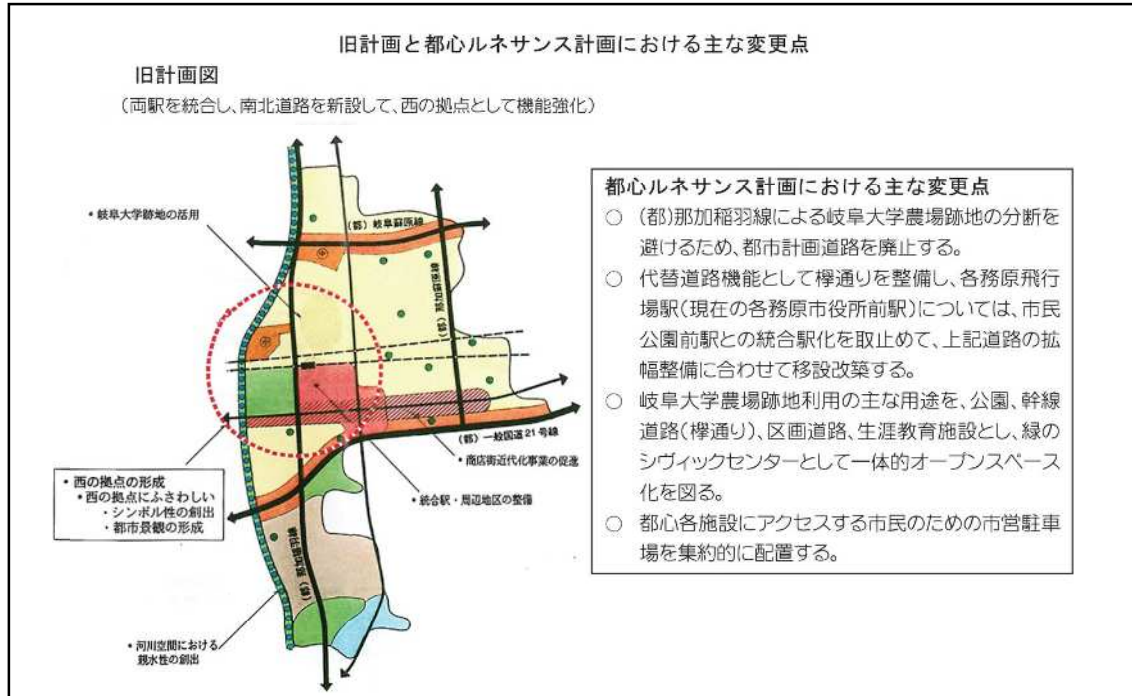
昭和 59 年（1984 年）3 月の「各務原市民公園基本設計説明書」では基本計画をもとに、各広場や公園施設のイメージが具体化されている。空間設計の指針は、園路・広場・施設・景観・色彩を切り口に示されており、園路広場、水の修景施設、工作物施設、植栽、便益管理施設の施設設計及び設備設計がまとめられている。この時点で文化施設は、参考資料として中央図書館基本構想が添付されている。周辺市町村と連携して市民サービスを展開する地域図書館を想定し、展示施設などの複合機能ではなく、図書館機能のみで計画されている。なお、構想案ではオープンギャラリーのグリッドにスパンを合わせてあり、思索の街角からのアプローチや芝生広場に面する児童用屋外スペースなど、公園と連動した設計方針が示されている。



中央図書館基本構想案

g. 市民公園整備以降

平成 13 年（2001 年）都心ルネサンス計画において、旧都市計画マスタープランからの方針転換が示され、都心ルネサンス地区における整備方針が以下のように整理されている。



市民公園の基本構想・基本計画において重視されてきた、敷地東側の道路や名鉄の新駅の計画が廃止されることに加え、学びの森や市営駐車場が整備されることで、敷地を取り巻く状況が計画当初のものから大きく変更されることとなった。なお、平成 19 年度の各務原市役所前駅周辺整備に合わせ、市民公園北東側の道路位置が変更され、一部外周園路の形状が変更された。

2-2 行政計画での位置づけ

a. 総合計画の考え方

「各務原市総合計画」の基本構想における将来都市像は、「笑顔があふれる元気なまち～しあわせ実感 かかみがはら～」と掲げられており、これからのまちづくりについては基本理念の一つとして、以下のように示されている。

これからのまちづくりは、行政主体で行うのではなく、市民や様々な団体などと協力し、絆・つながりを重視して、みんなの力でつくりあげていく必要があります。

これまで培った資源を活用し、将来都市像の実現を目指し、「誇り～新しい人づくり・地域づくり～」、「やさしさ～新しい安心づくり～」、「活力～新しい元気づくり～」を基本理念とすることが示されている。

b. 都市計画マスタープランの考え方

土地利用の方向性としては、今後の人口減少を見据え『選択と集中、重点化の視点により、これまでの「つくる」ことを中心とした考え方から、つくったものを「活かす」考え方へ転換していく中で活力や賑わいを創出し、都市としての質的な向上を目指す』と示されている。また、地区別構想の那加地区の商業地域においては『旧国道 21 号沿道は、市西部の商業拠点としての役割を果たしているが、近年その役割は低下傾向にあり、拠点としての活性化が課題』とある。市民公園リニューアルで期待される「エリア価値の向上」が、上記の課題解決に寄与することが望まれる。

c. 緑の基本計画の考え方

計画の課題整理において「公園等の整備・再編・再整備への対応」について以下のように示されている。

- ・ 人口減少や高齢化により、利用者ニーズに合っていない公園が見られる。
- ・ 公園施設の老朽化により、安全性やバリアフリー上の配慮が必要な施設が見られ、地域住民の声を聴きながら、改修を行う必要がある。
- ・ 多くの公園が経年劣化しており、補修費や点検費等がかさんでいる。

「緑の管理・育成計画」のビジョンにおいて、「市民参加の方針」や「民間活力の導入の方針」が整理されており、本業務との関連性のあるものを以下に示す。

- ・ 公園や緑地の管理に対する地域住民の参加の仕組みを充実させる。
- ・ NPO 等から利活用のアイデア等を公募し、新たな利活用を検討する。
- ・ 都市公園の管理運営、活用のパートナーをエリアマネジメント団体等のまちづくりの担い手に積極的に求めていく。

「緑の管理・育成計画」の施策において、「民間活力の導入による公園利活用の検討」が整理されており、本業務との関連性のあるものを以下に示す。

- ・ 企業の社会貢献の推進や魅力的な緑地空間の活用による集客効果への期待等から民間事業者の公園の管理及び活用を促進する。
- ・ 公園規模が大きく公共交通の利便性が良い公園等については、公園利用者の増加も期待できることから民間企業、NPO 等からアイデアを公募し、新たな利活用の検討を行う。
- ・ 健康、福祉、子育て、歴史、文化などの他分野との連携を推進し、新たな地域コミュニティの居場所づくりや、公園の利活用の新たな方向性を見出し、これらに関する団体等と協働で運用と維持管理手法について検討する。
- ・ 市民や企業、各種団体等と連携して、公園の利活用の新たな方向性を見出す検討を行う。
- ・ 市民協働によるイベントの開催を継続する。

d. 国の方針

緑の基本計画の参考資料に記載された「今後の緑とオープンスペースをめぐるまちづくりの方向性」は、H27 年 10 月に国交省より公開された『新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会（中間とりまとめ）』を参考にまとめられている。社会が成熟化し市民の価値観も多様化するなか、市民生活の質的向上、地域コミュニティの強化、持続可能で魅力あふれる都市の形成などへの緑とオープンスペースの更なる寄与が課題とされており、以下の点が強調されている。

新たな利活用

市民公園や学びの森等、公共交通の利便性が良く、また、市街地にある大規模な公園については新たな利活用について民間活力を取り入れながら検討し、都市内における緑とオープンスペースの更なる寄与が得られるように検討する。

また、「オープンスペースの維持、創造のために幅広い主体との協働により質を向上させていく仕組みの構築がされるべき」とあり、以下の点が強調されている。

都市公園の多機能性の発揮と維持管理

既存の都市公園や都市内農地を利活用し、健康、福祉、子育て、歴史、文化などの他分野との連携を推進し、新たな地域コミュニティの居場所づくりや、都市公園の新たな方向性を見出し、これらに関する団体等と協働で維持管理について行うよう検討する。

e. その他の計画及び方針

平成 15 年（2003 年）3 月にまとめられた「岐大跡地整備（公園等）基本計画修正業務委託報告書」で市民公園との関係について以下のようにまとめられている。

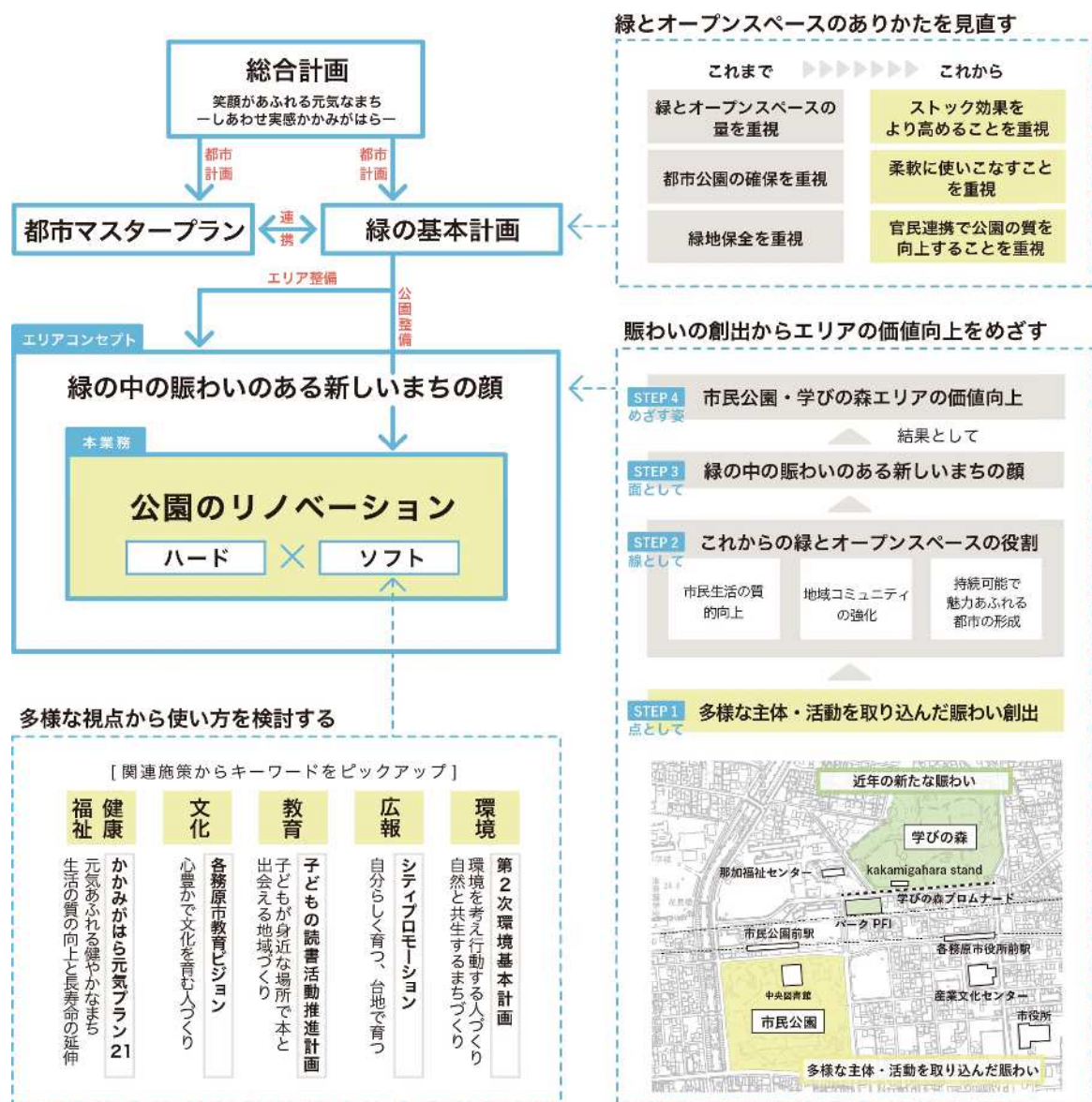
- ・ 各務原市水と緑の回廊計画（平成 13 年 3 月）では、7 つの拠点計画における「みどりのシビックセンター」の緑の核として、岐大跡地は市民公園と一体となった各務原市のセントラルパークとして整備が位置付けられるとともに、岐大跡地の貴重な樹木の保全、水の回廊に位置付けられる新境川との水辺のネットワーク、周辺地区の良好なまちづくりとの連携、市民の参加による緑の保全創出等が位置づけられている。
- ・ 各務原市都心ルネサンス計画調査（平成 13 年 3 月）では、岐大跡地利用に関する基本方針（案）が提案されており、その中で、岐阜大学発祥の地としての歴史性の継承、周辺の公園や公共施設との一体的な利用促進、都市基盤及び周辺市街地の生活環境向上に資する跡地利用等が位置づけられ、また課題として、防災公園の機能の検討、今後の市民参加による計画策定が位置づけられている。

学びの森は市民公園を含め一体的に整備することが強調されており、本リニューアル計画においても、学びの森との関係性を考慮しエリア一体でのオープンスペースの活用を検討することが必要である。

f. 行政計画のまとめ～「リノベーション」の視点を加えたリニューアル基本計画へ

総合計画・都市計画マスタープラン・緑の基本計画と本計画の関係を整理し、目指すべき姿を図式化すると下図のようにまとめることができる。

経済成長、人口増加の時代で大規模に整備された各務原市民公園は、いま、人口減少や社会の成熟化、市民の価値観の多様化といった社会状況の変化のなかで、施設の老朽化のみならず施設規模に対する利用率の低下が大きな課題になっている。こうした背景を踏まえ、リニューアル整備においては、単なるハード整備だけではなく多様な視点から公園の使い方自体を見直す「公園のリノベーション」という考え方が重要であり、「公園のリノベーション」により多様な主体・活動を取り込んだ賑わいが創出されることで、結果として周辺エリアへの波及とエリアの価値向上が期待される。



2－3 背景のまとめ

市民公園の歴史・経緯及び関連する行政計画より、リニューアルを検討する上で大切にすべき考え方や引き継ぐべき施設について整理すると、以下の項目が挙げられる。

1. 岐阜高等農林学校・岐阜大学時代からの歴史継承

- ・クニハガーデンの維持保全
- ・樹木の維持・保全

2. 岐大跡地整備の歴史継承

- ・広場と公園という骨格
- ・文化施設と公園を一体利用すること

3. 行政計画等

- ・市民協働
- ・学びの森を含めたエリア一体でのオープンスペース活用をすること

3. 公園の現況

3-1 施設劣化の状況

施設劣化の状況は目視による調査を行った。遊具等の一部の公園施設は、市で定期点検が実施されているため、調査が実施されていない園路や工作物等の調査を行った。劣化判定は、定期点検で採用されている4段階の判定を採用した。

施設劣化調査の実施状況

既に劣化状況を 確認している 工作物等	・遊具 ・健康器具 ・パーゴラ ・テントシェルター ・ベンチ ・水飲台 ・照明 ・時計塔 ・トイレ ・車止め ・駐輪場	▶▶ 既存データを利用
現時点で劣化状況の 確認がされていない 工作物等	・モニュメント ・路盤（仕上げ） ・花壇 ・案内板 ・池（ポンプ以外） ・水路	▶▶ 新たに調査を実施

定期点検より参照する劣化判定

- | |
|---|
| <p>a</p> <ul style="list-style-type: none">・全体的に健全である。・緊急の補修の必要はないため、日常の維持保全で管理するもの。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none">・全体的に健全だが、部分的に劣化が進行している。・緊急の補修の必要性はないが、維持保全での管理の中で、劣化部分について定期的な観察が必要なもの。 <p>c</p> <ul style="list-style-type: none">・修繕の必要な劣化がある状態・現時点では重大な事故につながらないが、利用し続けるためには部分的な補修、もしくは更新が必要なもの。 <p>d</p> <ul style="list-style-type: none">・全体的に顕著な劣化である。・重大な事故につながる恐れがあり、公園施設の利用禁止あるいは、緊急な補修、もしくは更新が必要とされるもの。 |
|---|

a. 工作物等の概況

今回新たに調査を実施した工作物等の概況を以下に記す。（詳細については参考資料参照）

1) 外周園路舗装（インターロッキング舗装部分）【劣化状況：c】

樹木の成長により、「根上り」を起こしている部分が多数みられ、ジョギング・ウォーキングの際につまずきの危険性がある状況である。部分的に不陸があり、水はけが悪い状態になっている。利用頻度の低い場所ではブロックの目地から雑草が生えている部分がある。



2) 一般園路舗装（レンガ舗装）【劣化状況：c】

レンガの割れ・破損が多数見られる状況である。異素材との取り合い部分で浮きが発生しており、目地部分ではコーキングが劣化している箇所や、芝が侵食している箇所があり、修繕が必要である。



3) 一般園路舗装（インターロッキング舗装部分）【劣化状況：c】

樹木の「根上り」や地盤の沈下により不陸が生じており、水たまりや落ち葉のたまりができています。



4) 歩道舗装（コンクリート舗装）【劣化状況：c】

表層部分に多数のクラックや段差が見られる。異素材との取り合い部分や目地部分に、破損している箇所がある。補修跡も目立つ状態であり、美観上好ましくない。



5) 植え込み部分の擁壁【劣化状況：c】

タイルの破損や剥離している箇所が多数ある。目地部分においては、補修コーキングが劣化している部分や、沈下によるズレが発生している箇所がある。



6) 噴水池及び周辺造作【劣化状況：b】

噴水外周部の立ち上がり部分より、漏水している箇所がある。また池底には藻が発生している。周辺造作はタイルの汚れや白華が見られ、経年劣化を感じさせる状態である。



7) 茶室及び日本庭園【劣化状況：b】

茶室では、外壁に傷跡による落書きや室外機カバーの破損が見られるが、機能上の問題は見られない。日本庭園では水路の水が枯れており落ち葉のたまり場になっている。また茶室入口の屋根が一部破損しており、修繕が必要な状態である。



8) 池（じゃぶじゃぶ池・噴水池・落水池・緑の街角の池）【劣化状況：b・c】

じゃぶじゃぶ池は週1回の公園管理人による清掃、噴水池及び落水池は年3回の業者による清掃が実施されているが、調査時に池底に藻が発生している箇所があった。緑の街角の池はビオトープとして計画されているが、美観上好ましくない状態にあり何らかの対策が必要と思われる。



9) 水路【劣化状況：c】

水路は側壁の石垣が樹木の影響で倒壊している箇所があり修繕が必要な状態である。水路底面のコンクリートが割れている部分があり、枯れ葉の堆積で水たまりになっている箇所がある。



10) 滝【劣化状況：b】

手入れが行き届いておらず落ち葉が溜まっている状態である。



11) 花壇【劣化状況：b】

花壇の縁石に一部クラックが見られる。



12) ステップガーデン【劣化状況：c】

タイルの破損や剥がれが多く見られる状態である。特にコーナー部分の破損が著しい。また目地部分が広がり雑草が生えている箇所がある。



13) モニュメント・石碑等【劣化状況：a】

モニュメント類に目立った破損は見られない。一部雨染みによる汚れが見られる。



14) 案内板・掲示板【劣化状況：b・c】

タイル貼りの案内板は破損や剥がれが見られる。掲示板は日焼けによる退色により表示内容が見づらいものや、内容が古いものがある。また、支柱にサビが発生しているものもある。



b. ゾーン毎の概況

市の定期点検のデータと新規調査を統合しゾーン毎の総合評価を以下に記す。

遊びの街角

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	桜の根上り有り
② 一般園路舗装（レンガ舗装）	無	b・c	クラック・不陸
③ じゃぶじゃぶ池	無	b	排水口詰まりあり
④ 擁壁（植え込み部）	無	c	タイル破損・剥離
⑤ トイレ（西）	有	c	天井にカビ
⑥ 倉庫・管理人室	無	c	
⑦ 鋼製複合遊具（大）	有	c	
⑧ 鋼製複合遊具（小）	有	c	
⑨ 砂場	有	c	
⑩ 健康器具（全般）	有	b・c	
⑪ 水飲み台	有	b	
⑫ 時計塔（西トイレ側）	有	c	
⑬ 石ベンチ	無	b	
⑭ 歌碑	無	a	

図書館周辺

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	桜の根上り有り
② 一般園路舗装（レンガ舗装）	無	b・c	クラック・不陸
③ 歩道（コンクリート舗装）	無	c	クラック・不陸
④ 茶室周囲	無	b	エアコン室外機カバー破損
⑤ 水路	無	b	
⑥ 日本庭園	無	b	
⑦ 茶室門	無	c	屋根部分破損
⑧ 図書館南ステージ	無	b	
⑨ 時計塔（図書館側）	有	a	
⑩ 掲揚柱	無	a	
⑪ バリカー	無	c	傾きあり
⑫ 自転車置場	無	b	
⑬ 掲示板	無	a	
⑭ 看板（複数）	無	a・b	

思索の街角

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	b	
② 一般園路舗装（レンガ舗装）	無	c	クラック・不陸
③ 擁壁（植え込み部）	無	c	タイル破損・剥離
④ 噴水周り造作	無	b	
⑤ 噴水池	無	b	
⑥ 案内板（思索の街角）	無	c	タイル破損・剥離
⑦ 掲示板	無	b	
⑧ 案内板	無	c	支柱にサビ
⑨ 植栽ボックス	無	c	木部に傷み・腐り
⑩ 看板（複数）	無	a・c	

オープンギャラリー

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	桜の根上り有り
② 歩道（コンクリート舗装）	無	c	クラック・不陸
③ 芝生（タイル）部	無	b	
④ 水路	無	c	石垣倒れあり
⑤ トイレ（東）	有	c	
⑥ ポンプ室	無	b	
⑦ テントシェルター	有	b	
⑧ パーゴラ（大）	有	b	
⑨ 平和の日モニュメント	無	a	
⑩ 時計塔（東トイレ側）	有	b	
⑪ 花壇（防火水槽）	無	b	
⑫ 看板（複数）	無	a・b	

緑の街角

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	根上り有り・縁石ズレ
② 一般園路舗装（レンガ舗装）	無	b	
③ 池（花壇横）	無	c	枯葉堆積
④ 池（パーゴラ横）	無	c	ビオトープ汚れ
⑤ 滝	無	b	
⑥ 花壇	無	b	
⑦ パーゴラ（小）	有	b	
⑧ モニュメント（遠藤儀作翁）	無	a	
⑨ 案内板（緑の街角）	無	b	
⑩ 水飲台	有	b	
⑪ 看板（複数）	無	a・d	
⑫ モニュメント（クニハガーデン）	無	a	
⑬ 花壇（クニハガーデン）	無	b	

メモリアルガーデン

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	根上り有り
② 園路舗装（ILB 舗装）	無	c	不陸・がたつき
③ 水路	無	c	石垣倒れあり
④ 石碑	無	a	
⑤ タイムカプセル	無	a	
⑥ 園名台	無	b	
⑦ 看板（黒川紀章）	無	a	
⑧ 看板（複数）	無	a・c	

出会いの街角

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	根上り有り・水たまり
② 一般園路舗装（レンガ舗装）	無	b c	
③ 落水池	無	c	タイル破損
④ ステップガーデン	無	c	タイル破損
⑤ 時計台（コンクリート）	有	c	
⑥ ベンチ（複数）	有	b	
⑦ 看板（複数）	無	c	
⑧ 公衆電話	無	a	

お花見広場

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 外周園路舗装（ILB 舗装）	無	c	根上り有り
② 歩道（コンクリート舗装）	無	c	クラック・不陸
③ 園路舗装（ILB 舗装）	無	b	
④ 水路	無	b	
⑤ 自販機コーナー	無	b	
⑥ 自転車置場	有	a	
⑦ 物置	無	b	
⑧ 看板（複数）	無	c	

市民広場

調査対象施設	定期点検	評価	備考
① 歩道（コンクリート舗装）	無	c	クラック・不陸
② 芝生	無	b	
③ ベンチ	有	b	

3-2 施設利用と市民意識の現況

施設利用と市民意識の現況は、市民アンケート（a）と関係各課及び関係者へのヒアリング（b）による調査を行った。

a. 市民アンケート

「市民がもっと使いたくなる市民公園にしていくためのアンケート」を実施した。質問の構成は、現在の市民公園と未来の市民公園に対しての二段階構成とした。本章の目的は現況把握のため、前者のみを扱うこととする。（後者は次章にて扱う）また、アンケートから読み取れる施設利用と市民意識については、「回答者属性」からみる特徴及び「ゾーン」からみる特徴にまとめた。

【調査概要】

実施期間 令和元年 11 月～12 月上旬
質問内容 市民公園の利用の有無、利用頻度
中央図書館の利用の有無、利用頻度
市民公園を誰と一緒に利用しているか、どんなことで利用しているか
市民公園内でよく使う場所、お気に入りスポット
市民公園に対する評価
市民公園が愛されている施設と思うか
市民公園の良いところ、残念なところ
（※原本は資料編とする）

回答者数 810 人

回答者属性

WEB	366人	45%
市民公園内	102人	13%
中央図書館内	100人	12%
さくら子ども館利用者	40人	5%
那加第二小学校 3年生	75人	9%
那加第二小学校 教員	23人	3%
中部各院大学学生	32人	4%
クラブサークル	63人	8%
市民公園利用申請者	8人	1%
市役所窓口	1人	0%
合計	810人	100%

職業	回答数	回答率
自営業	23人	3%
会社員、公務員、団体職員	231人	29%
パート、アルバイト、派遣	93人	11%
専業主婦、専業主夫	181人	22%
学生（中学生、高校生、大学生）	96人	12%
小学生	75人	9%
無職	83人	10%
その他	7人	1%
未回答	21人	3%
合計	810人	100%

性別	回答数	回答率
男性	299人	37%
女性	495人	61%
未回答	16人	2%
合計	810人	100%

居住エリア	回答数	回答率
那加	326人	40%
蘇原	131人	16%
鵜沼	158人	20%
稲羽	35人	4%
川島	14人	2%
市外	94人	12%
未選択	52人	6%
合計	810人	100%

年代	回答数	回答率
～10代	75人	9%
10代	93人	11%
20代	78人	10%
30代	204人	25%
40代	118人	15%
50代	70人	9%
60代～	169人	21%
未回答	3人	0%
合計	810人	100%

アンケートの分析① <回答者属性ごとの特徴>

回答者の属性ごとにクロス集計を行った結果、一部を除き概ね世代別にみる傾向に差が見られたことから、本節では主に世代別に利用状況と市民意識の傾向をまとめる。

1) 市民公園の利用の有無と利用頻度の傾向

①利用の有無について

【～10代、20～40代、60代～】

利用している割合が8割以上で比較的高い。

【10代、50代】

利用している割合が6割程度で他の世代に比べて低い。

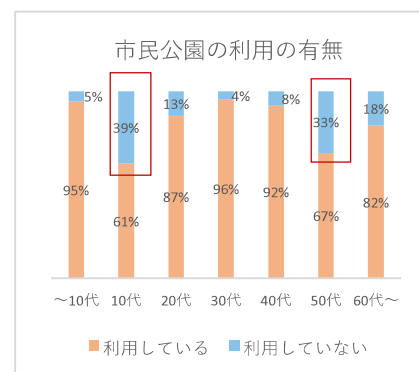


図1 世代別に見る市民公園利用の有無

②利用頻度について

【～10代】月数回の割合が最も高い

【10～30代】月に数回～年数回の割合が最も高い。

【40～50代】年に数回の割合が最も高い。

【60代～】週1回以上の割合が最も高い。

【自営業、会社員】年数回の割合が最も高い。

【無職】週1回以上の割合が最も高い。

【上記以外の職業】月数回の割合が最も高い。

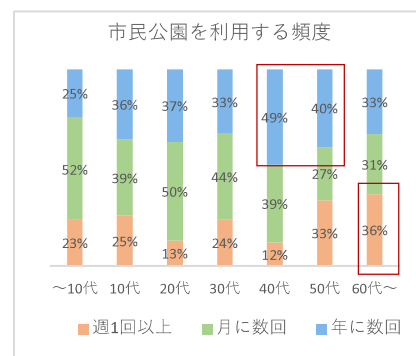


図2.世代別に見る市民公園の利用頻度

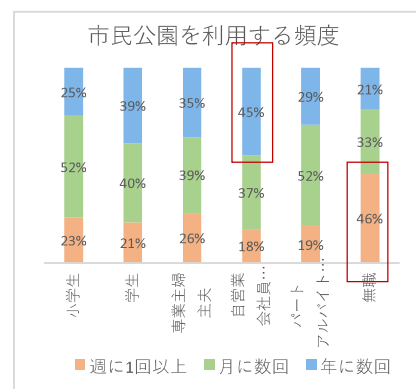


図3.職業別に見る市民公園の利用頻度

考 察

学生やミドル世代の就労者は日中を学校や仕事の時間に費やしているため、他の世代よりも利用率が低いことが考えられる。また、仕事をリタイアしたシニア世代は時間的余裕があるため、他の世代よりも公園を日常利用していることが考えられる。また、こどもや子育て世代の両世代で利用率が高いのは、親子で公園を過ごすことが起因していると考えられる。

2) 一緒に利用する相手の傾向

- 【～10代】 家族と利用する割合が最も高く、次いで友達と利用する割合が高いが、ひとりで利用する割合は他の世代と比べ最も低い。
- 【10代】 友達と利用する割合が他の世代に比べて高い。また、家族と利用する割合は他の世代に比べて低い。
- 【20～40代】 家族と利用する割合が他の世代よりも高い。
- 【50代以上】 家族での利用と同程度ではあるが、ひとりで利用する割合が他の世代に比べ最も高い。

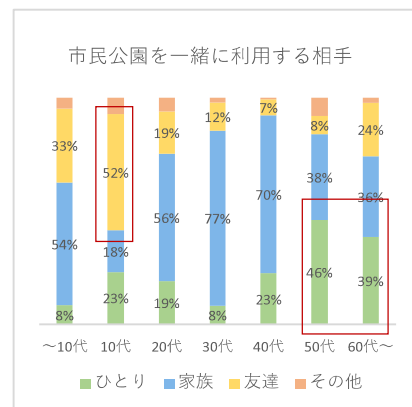


図4.世代別に見る一緒に利用する相手

考 察

こどもや子育て世代は親子での利用が主であることが考えられる。また、学生はどの世代よりも友達と公園で過ごし、シニア世代はどの世代よりも一人で公園で過ごす選択をしており、公園をだれと使うかが世代により異なることがわかる。

3) 利用場所の傾向

単純集計により、よく使う場所として回答が多く得られた噴水池、芝生広場、遊具広場、図書館の4箇所について、世代ごとの主な利用場所を捉えた。

- 【～10代】 噴水池、芝生広場、遊具広場、図書館
- 【10代】 噴水池、芝生広場、図書館
- 【20～40代】 噴水池、芝生広場、遊具広場
- 【50代】 噴水池、芝生広場
- 【60代～】 噴水池、芝生広場、図書館

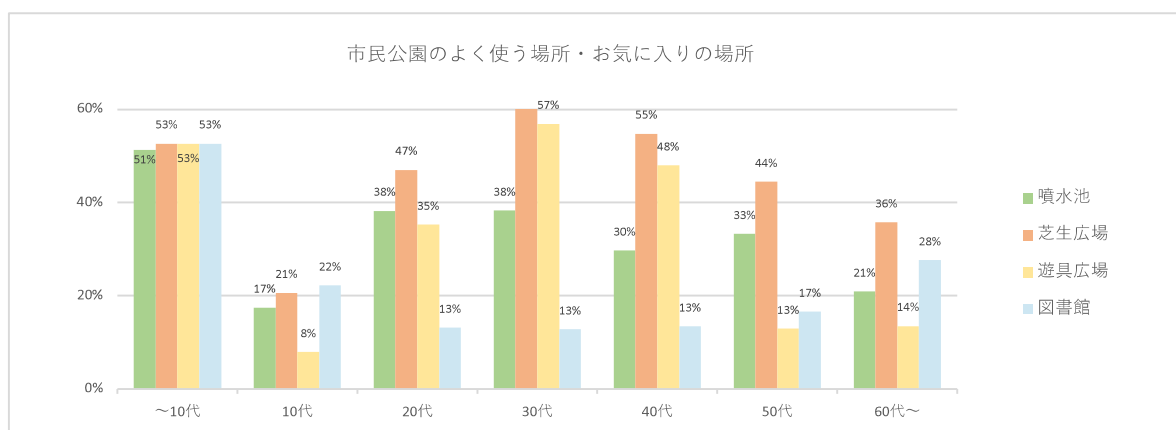


図5.世代別に見る、よく使う場所・お気に入りの場所(複数選択)

4) 利用目的の傾向

【～10代】遊びを主な目的としている。

【10代】勉強を主な目的としている一方で、図書館自体を目的にしている割合は低い。

【20・40代】散歩と遊びの両方を主な目的としており、ついでピクニックを目的としている。

【30代】遊びを主な目的とし、次いで散歩を目的としている。

【50代以上】散歩を主な目的としている。

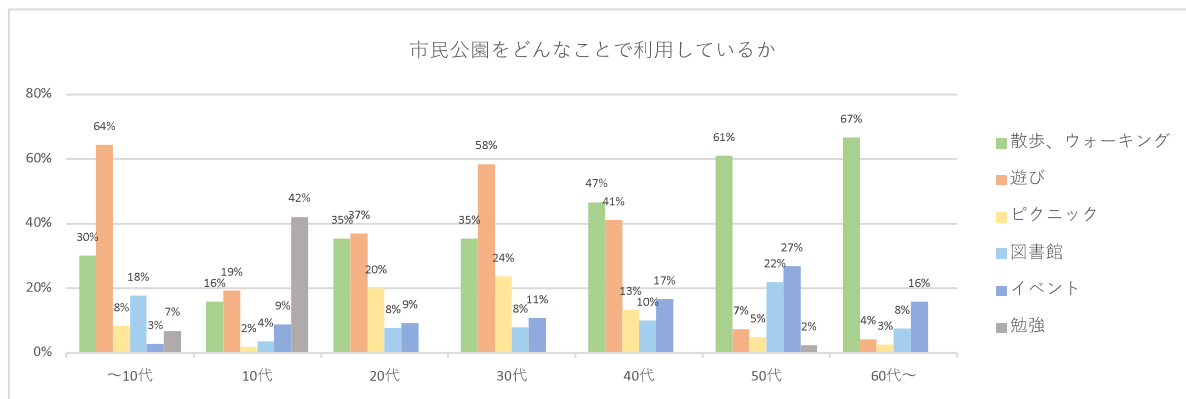


図 6.世代別に見る市民公園を使う理由（自由記述）

考 察

子どもや子育て世代は親子で遊ぶことが主な目的であり、子育て世代は合わせてピクニックを楽しんでいることも考えられる。また、シニア世代になると、一人でも過ごせる散歩が主な目的となっていると考えられる。学生については、図書館を「本を借りる・読書をする場」ではなく「学習スペース」として利用していることが考えられる。

5) 市民公園の残念なところ

【～10代】トイレと遊具の不足についてマイナス意識を感じている。

【10代】トイレについてマイナス意識を感じている。

【20～40代】トイレと遊具の不足についてマイナス意識を感じている。

飲み物や食べ物を買える場所の不足にマイナス意識を持つ人も一定数いる。

【50代】トイレと休憩場所の不足についてマイナス意識を感じている。

【60代～】休憩場所の不足と木が生い茂っていて暗いことにマイナス意識を感じている。

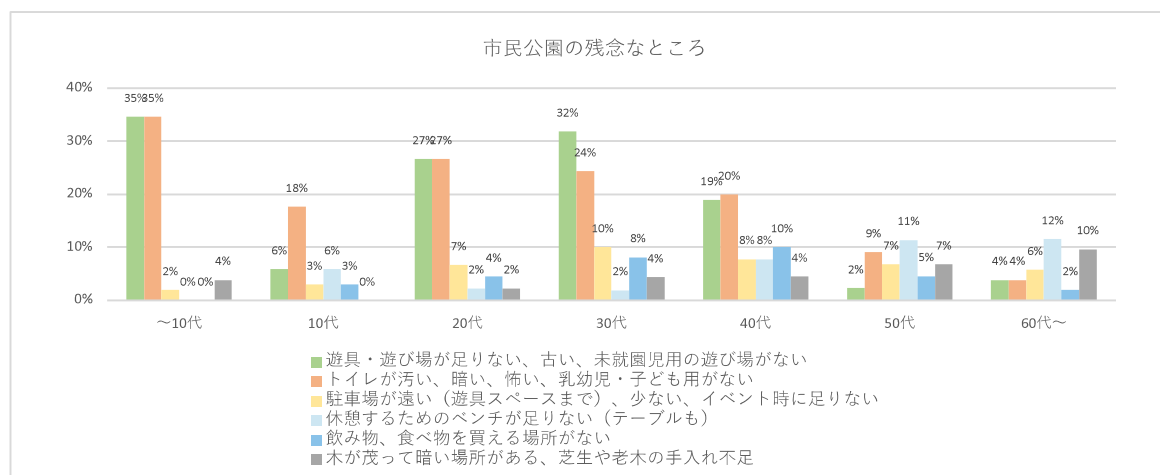


図 7. 世代別に見る市民公園の残念なところ(自由記述)

考 察

全ての世代が利用するトイレは世代に限らずマイナス意識を感じていると考えられる。一方、「遊具の不足」は遊ぶことを主な目的にしている世代の意識であり、「飲み物・食べ物を購入できる場所の不足」はピクニックを目的にしている世代の意識であり、「休憩場所の不足や樹木の手入れ不足」については散歩を目的にしている世代の意識であることから、それぞれ利用形態とマイナス意識（＝使う上で改善してほしい部分）が紐づいていると考えられる。

【回答者属性ごとの施設利用と市民意識のまとめ】

回答者の属性ごとの分析から、概ね3つ（下図3色）の施設利用及び市民意識を把握した。また、リニューアルする上で考慮すべきこととして下記の1から5が得られた。

どんな人が	誰と	どこをつかっている	何をしている	使う上で改善してほしい点
学生世代	友達	噴水池、芝生広場、図書館	勉強	トイレ
こども世代	親や友達	噴水池、芝生広場、遊具広場、図書館	遊び	トイレ、遊具の不足
子育て世代	こども	噴水池、芝生広場、遊具広場	遊びや散歩	トイレ、遊具の不足、 飲食物を買える場所の不足
ミドル世代	家族やひとり	噴水池、芝生広場	散歩	トイレ、休憩場所の不足
シニア世代	家族やひとり	噴水池、芝生広場、図書館	散歩	休憩場所、木が茂った部分

1. 誰もが使いやすいトイレに改修
2. 親子のための遊べる場所・飲食物を買える場所の充実
3. 学生のための友達と過ごせる場所（図書館周り）の充実
4. ミドル世代以上のための一人でも過ごせる休憩場所（園路沿い）の充実

アンケートの分析② <ゾーンごとの特徴>

1) 各ゾーンの利用度合いと市民の意識

表 1 は市民公園のよく使う場所・お気に入り場所に對する問い、表 2 は市民公園の良いところに対する問いである。両者は類似の問いであるが、前者は「選択肢」であり、後者は「自由記述」という点に違いがあり、後者の方がより意識した回答結果として捉えることができる。

表-1 (選択肢)

市民公園のよく使う場所 お気に入りの場所	回答数
芝生広場	333
遊具広場	253
噴水池	227
図書館	151
ランニングコース	115
健康器具	89
緑の街角'花壇'	72
じゃぶじゃぶ池	68
未回答	63
お気に入りはない	46
日本庭園・茶室	36
ステップガーデン・落水池	26
その他	9
アンケート回答者数	810

表 2 (自由記述)

市民公園の良いところ	回答数
広い、開放的	241
自然が豊か(大きな木、生き物、水、季節感など)	159
芝生広場がある	100
駐車場が近い、広い、無料	77
清掃、管理、手入れがされている	70
アクセスが良い(駅から近い)	65
図書館がある	64
遊具がある	58
きれい	39
多世代が過ごせる、楽しめる	36
居心地が良い、落ち着きがある(人が多すぎない)、ゆっくり	34
桜がある(花見、桜祭り)	33
安全、安心	26
市の中心にある、ほかの公共施設に近い	25
イベントがある	25
休憩できる(木陰、ベンチ、テントなど)	16
健康器具	16
こどもがのびのび遊べる	14
ボール遊びができる	11
静か	10
噴水	3
ポケモンGO	2
その他	129
未記入	116
アンケート回答者数	810

考 察

よく使う場所を選択する質問では 200 人以上が「噴水池」と回答している一方で、市民公園の良いところを記述する質問では 3 人しか「噴水」に対する回答をしていない。このことは、公園利用者がよく通る場所に噴水池があることが影響しており(公園の入口あたりのゾーンとして認識していることが考えられる)、噴水自体を特別意識していないとも言える。すなはち、どの世代にも良く利用され高く意識されている「芝生広場」が市民公園の重要な場所と言い換える事できる。

また、「ランニングコース」も同様に、選択する質問では 100 人以上が回答している一方で、記述式では回答を得られなかった。

2) 各ゾーンの主な利用者

表1において回答者が50人以上みられた8つのゾーンについて、主な利用者を捉えた。

【芝生広場・遊具広場・じゃぶじゃぶ池・噴水池】

こども、子育て世代が多く利用しているゾーン。親子で遊べる場所として利用されていると考えられる。ただし、噴水池については子育て世代以上も一定の利用がみられる。

【図書館、緑の街角】

こどもと、シニア世代が多く利用していることが分かる。シニア世代には散歩利用が多いことから、散歩の途中に緑の街角に立ち寄ることが考えられる。なお、回答者属性からみる利用状況の分析では、学生が図書館（主に自習）を利用している傾向がみられたが、図書館を主体として分析すると、主な利用者が学生ではないという差がみられた。これは、学生自体の市民公園の利用率が低いことに起因していると考えられる。

【ランニングコース】

ミドル世代、シニア世代が多く利用していることが分かる。これは、その世代の施設の利用目的が散歩などの周遊利用であることが起因していると考えられる。

【健康器具】

特定の利用者がみられないゾーンである。これは、ミドル世代やシニア世代が主に利用しているが、現在の健康器具のある場所が遊具広場であることから、こどもの利用が一定数みられる結果となったと考えられる。

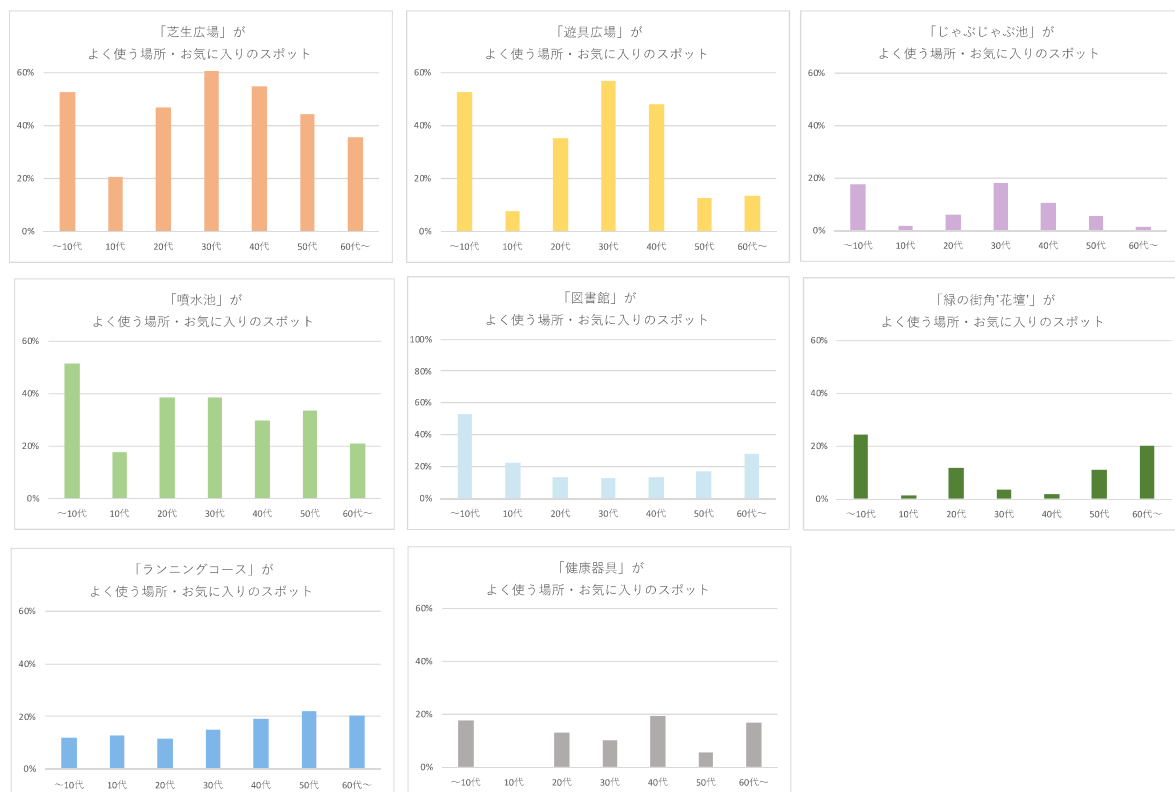


図 8.世代別で見る市民公園でよく使う場所・お気に入りのスポット

3) 図書館と市民公園の利用状況

公園及び図書館それぞれの現地アンケートより、「図書館利用者」は図書館と公園を利用する頻度が同程度であることに対し、「公園利用者」は図書館の利用率が低い結果となった。このことから、公園の中に図書館があり一体利用できる可能性はあるものの、それぞれ単独で利用されていることが考えられる。

一方で、「市民公園と図書館を一体的に利用することに対するイメージ」については、全回答者(810人)のうち、7割を超える人が良いイメージと回答していることから、リニューアルにおいては一体利用できる可能性を活かすことが望ましいといえる。

表 3.市民公園と図書館の利用率の比較（現地アンケート）

公園		図書館利用		
現地アンケート		週に1回以上	月に数回	年に数回
公園利用	週に1回以上	2	14	8
	月に数回	3	12	4
	年に数回	1	2	3

図書館		図書館利用		
現地アンケート		週に1回以上	月に数回	年に数回
公園利用	週1回以上	18	8	2
	月に数回	5	21	0
	年に数回	1	11	0

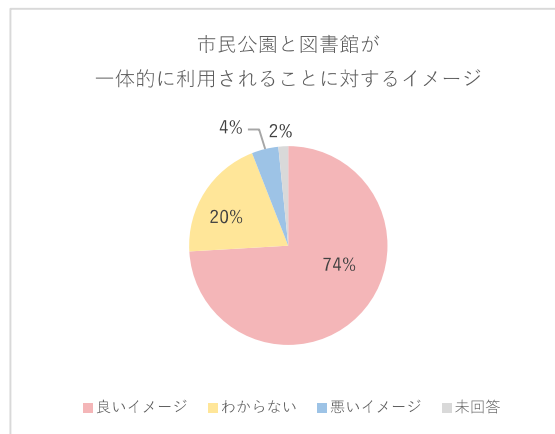


図 9.市民公園と図書館の一体利用についてのイメージ

【ゾーンごとの施設利用と市民意識のまとめ】

ゾーンごとの分析から、以下の施設利用及び市民意識の現況を把握した。また、リニューアルする上で考慮すべきこととして下記の1から3が得られた。

ゾーン	どのくらい使われているか	どのくらい意識されているか	主な利用者
芝生広場	高利用	高く意識	こども・子育て世代
遊具広場	高利用	高く意識	こども・子育て世代
噴水池（ゾーン）	高利用	無意識	こども
図書館	高利用	高く意識	こども・シニア世代
ランニングコース	高利用	無意識	ミドル・シニア世代
健康器具	中利用	やや意識	
緑の街角 花壇	中利用	無意識	こども・シニア世代
じゃぶじゃぶ池	中利用	無意識	こども・子育て世代
日本庭園・茶室	低利用	無意識	
ステップガーデン	低利用	無意識	
オープンギャラリー	低利用	無意識	
メモリアルガーデン	低利用	無意識	
お花見広場	低利用	やや意識	

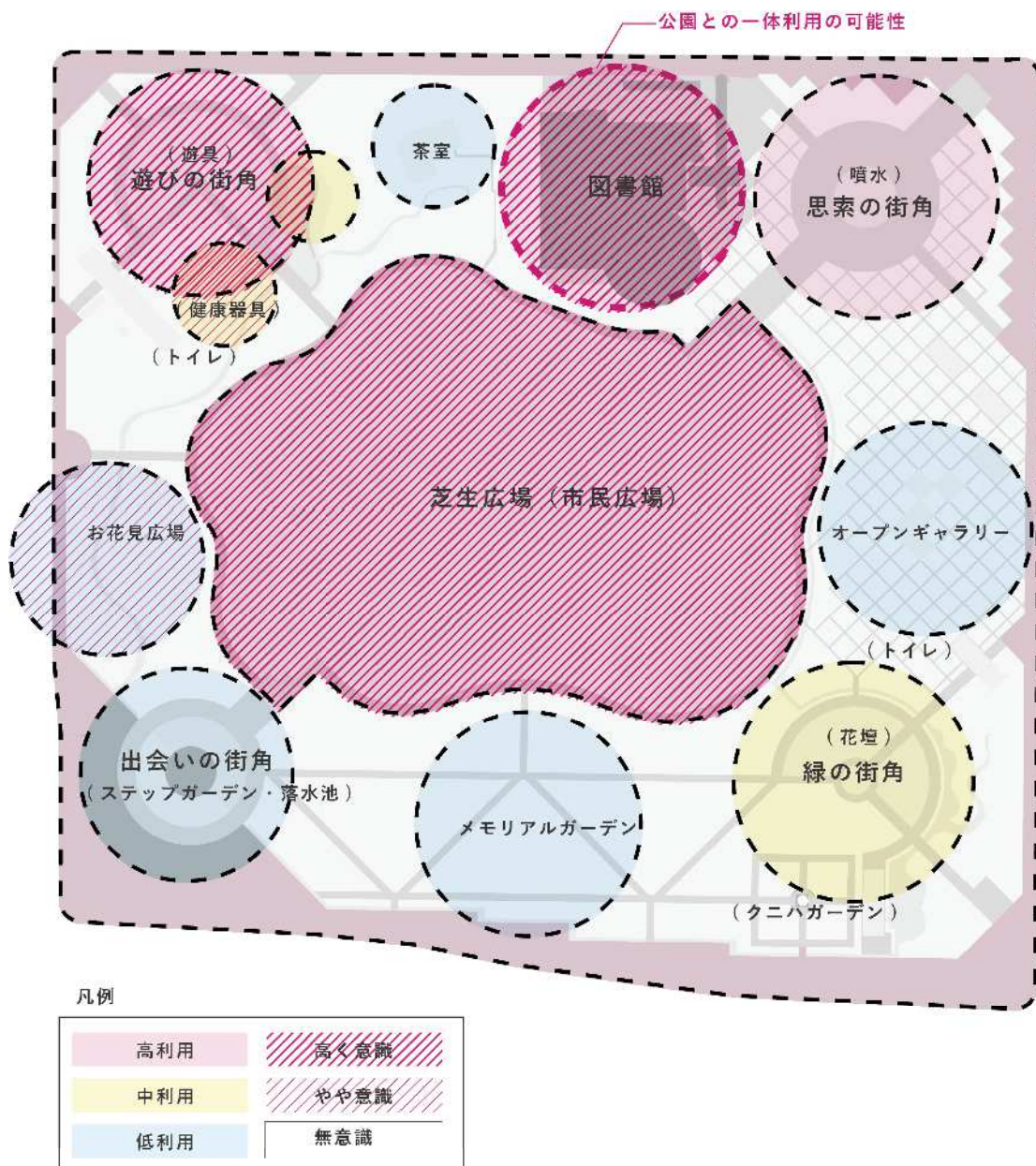


図 10.ゾーンごとの施設利用と市民意識の現況

5. 芝生広場は市民公園の骨格である

6. 公園と図書館の一体的な利用をめざす

7. 低利用・無意識ゾーンの役割の見直し

日本庭園・茶室、ステップガーデン、オープンギャラリー、メモリアルガーデン、お花見広場
噴水池ゾーン、ランニングコース、緑の街角、じゃぶじゃぶ池

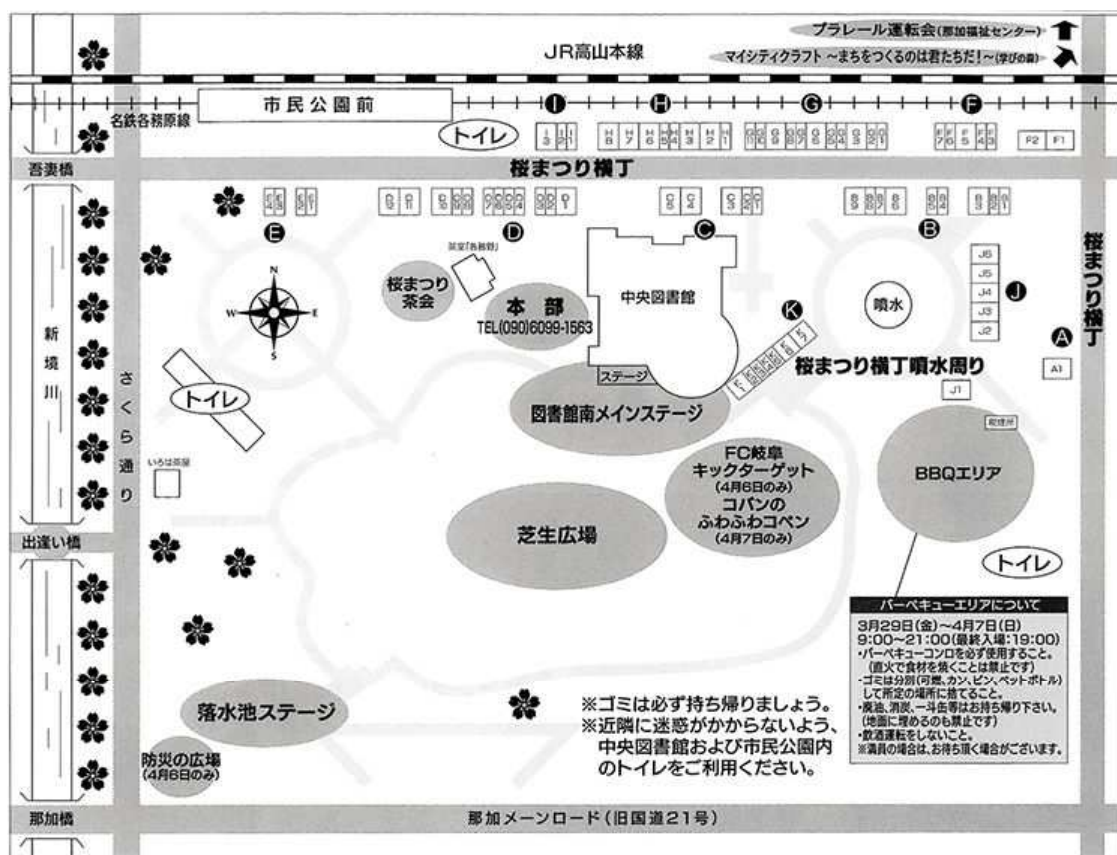
b.関係者ヒアリング

市の関係者に施設に対する利用状況や不具合を感じている点等についてヒアリングを実施した。

市民公園との関係		
イベント利用	観光交流課	桜まつりの運営
	いきいき楽習課	マーケット日和の運営
	スポーツ課	スポーツ元気祭の運営
	公園使用申請者	
施設管理	河川公園課	施設の維持管理
樹木管理	河川公園課	樹木の維持管理

(1) イベント利用関係

①観光交流課（桜まつりで年1回2日間使用、来場者数15万人）



図：桜まつりの案内マップ

[運営を行う上での不具合等]

- ・ イベント時の駐車場、駐輪場、トイレの不足。
- ・ 車両乗り入れの際に、車体下に芝の養生を行う必要があり不便。
- ・ 園内の車の走行が芝のはがれ等により禁止されているため、車両での移動を伴う設営が不便。
- ・ 排水設備や電源の不足（BBQ 時など）。
- ・ 図書館南のステージ部分の風雨避けるための場所があると良い。
- ・ 大型観光バスの駐車スペースがない。
- ・ 全面的に桜のコブ病がみられるが、西側は桜ゾーンとして残し他は適宜整備しても問題ない。

②いきいき楽習課 （マーケット日和で年1回使用）



図：マーケット日和の案内マップ

[運営を行う上での不具合等]

- ・車両乗り入れの際に、車体下に路盤の養生を行う必要があり不便。
- ・北東部の植え込み基壇部により出店者の搬入経路が限られてしまうため不便。また、東側の格子状の芝生部分も搬入経路がピンポイントになるため不便。
- ・給排水設備が古く飲食出店者用の給水ができない。
- ・音の問題がクリアできれば、コンサートができると良い。
- ・雨天時にも使用できるような屋根付きの休憩スペースやステージなどがあると良い。

③スポーツ課 （スポーツ元気祭で年1回使用）



図：スポーツ元気祭の案内マップ

[運営を行う上での不具合等]

- ・車両乗り入れの際に、車体下に路盤の養生を行う必要があり不便。
- ・ランニングコースの路盤が悪く使いづらい。
- ・ボルダリングやクライミングなどの需要がある。
- ・ステージでラジオ体操などもできると良い。

④公園使用申請者

市民公園の使用申請者へのヒアリングにより、使用上の不具合やリニューアルに期待する事として以下があげられた。

[運営を行う上での不具合等]

- ・車両や高さのある荷物の乗入れが困難。
- ・さまざまなイベントに利用できる屋外ステージがあると良い。
- ・管理している人の顔が見えると良い。

【イベント利用の観点からみるリニューアルする上で考慮すること】

複数のイベント利用関係者に共通していた施設活用状の不具合等から、リニューアルする上で考慮すべきこととして以下の3点が得られた。

1. 車両の乗り入れができる場所の確保
2. 園内の搬入経路の確保
3. 必要な場所への給排水設備・電源の確保

(2) 施設管理関係

□河川公園課

施設管理の観点から河川公園課にヒアリングを実施した結果を以下に記す。

[基盤部分についてあげられた主な意見]

- ・給排水設備、照明設備の更新について
- ・路盤の老朽化や痛みによる故障部分の修繕の必要性について

[その他工作物等]

- ・故障部分の修繕の必要性について
- ・管理状態の悪さの改善や不清潔な場所の見直しについて

以下にゾーンごとにあげられた意見を記す。

場所	河川公園課からの自由意見	整備の方向性	備考
全体	照明計画を見直してはどうか。	整備する	照明計画にて検討を行う。
	観光用に大型バスの駐車場を設けてほしい。(管財課)	敷地外で整備する	観光バスが来ている現状があるが、受け入れ体制がない(駐車場がない)ため、敷地外に整備する内容を基本計画に含める。
	注意看板に統一感がない。	整備する	看板関係はサイン計画において検討。
	市民公園のルール看板を設けてはどうか。	整備する	併せて、利用者意識のリノベーションの寄与できる内容を検討。
	給水設備、電気設備の更新をした方がよい。	整備する	全てを改修する基本計画とし、金額次第では実施設計の段階で部分改修にするか全面改修にするか調整すべき。
思索の 街角	テント部分が薄暗い。	整備を検討	更新頻度が高い割に利用者が少ないため、全体計画を踏まえて、場合によっては撤去も含めて整備を行う必要がある。
	平板 根上りで盛り上がっている。	整備する	根を傷つけ内容に補修を行う。
	水路の側面や底面が根上りがりで盛り上がっている。		
遊びの 街角	複合遊具がよく壊れる。全面更新したい。	整備する	補修又は更新する。可能であれば幼児用のスペースも整備する。
	健康遊具、台数を増やしてほしい。	整備範囲検討	場所の移動も含めて検討する。
	管理人室の劣化。現在1名しかいないので不要では。	整備範囲検討	
	足元照明について、よく漏電する。	整備する	(3)に同じ。
	小川を飛び越える飛び石が少ない。	整備する	
	西北のランニングコースが狭い。	整備する	全体計画を踏まえて検討する必要がある。
出会いの 街角	出会いの場所になっていない。	整備範囲検討	新たな利活用のあり方次第で方向性を決定すべき。
	利用者が少ない。		安全性以外の部分で単純な施設更新を行わない方が好ましいと考えられる。
緑の 街角	地味、わざわざ一年草の花壇を見に来ない。		
	トイレが古い、暗い。	整備する	アンケート結果及び現況を鑑み、全体改修することが適当であるとする。
	保存樹木は残したい。	整備する	樹木医等の専門家と相談の上、樹木計画において検討を行う。
	鬱蒼としている箇所は剪定や間伐を行いたい。	整備する	樹木医等の専門家と相談の上、樹木計画において検討を行う。
市民広場	芝生にメリケントキンソウが生え、裸足で歩けない	整備範囲検討	樹木医ヒアリングによる張替の必要性を踏まえ整備方針を決定する必要がある。

（３）樹木管理関係

既存樹木の状況を把握する為に、樹木医等の現地調査及びヒアリングを実施した。調査の結果、樹木を整備する上での着眼点として次の４つが得られた。

- ① 歴史性のある樹木
- ② 無秩序に植樹された記念樹
- ③ 樹木の健康状態
- ④ 樹木の維持管理
 - i) 管理の行き届いていない樹木群
 - ii) 樹形の損なわれた樹木
 - iii) 根上りや幹の肥大化した樹木
 - iv) 慎重に経過観察すべき高木

① 歴史性のある樹木

過去の施設整備の設計図書より、現在の樹木は植樹背景より５つに分類に分類できる。

・岐阜大学時代からの既存樹

岐阜大学時代から生植していた樹木であり、公園整備の際もその場所に残された樹木。樹木単体の歴史と、その場所に対する歴史の両方をもつため、最も歴史性のある樹木といえる。整備をする際も特別な理由がない限り残すべき樹木である。

・岐阜大学時代の園内からの移植樹

岐阜大学時代から生植していた樹木であるが、市民公園整備の際に計画に合わせて園内の他の場所へと移植された樹木。樹木単体での歴史はあるものの、その場所に対する歴史は既存樹よりないため、残すべきか検討する余地のある樹木である。

・岐阜大学時代の植物園からの移植樹

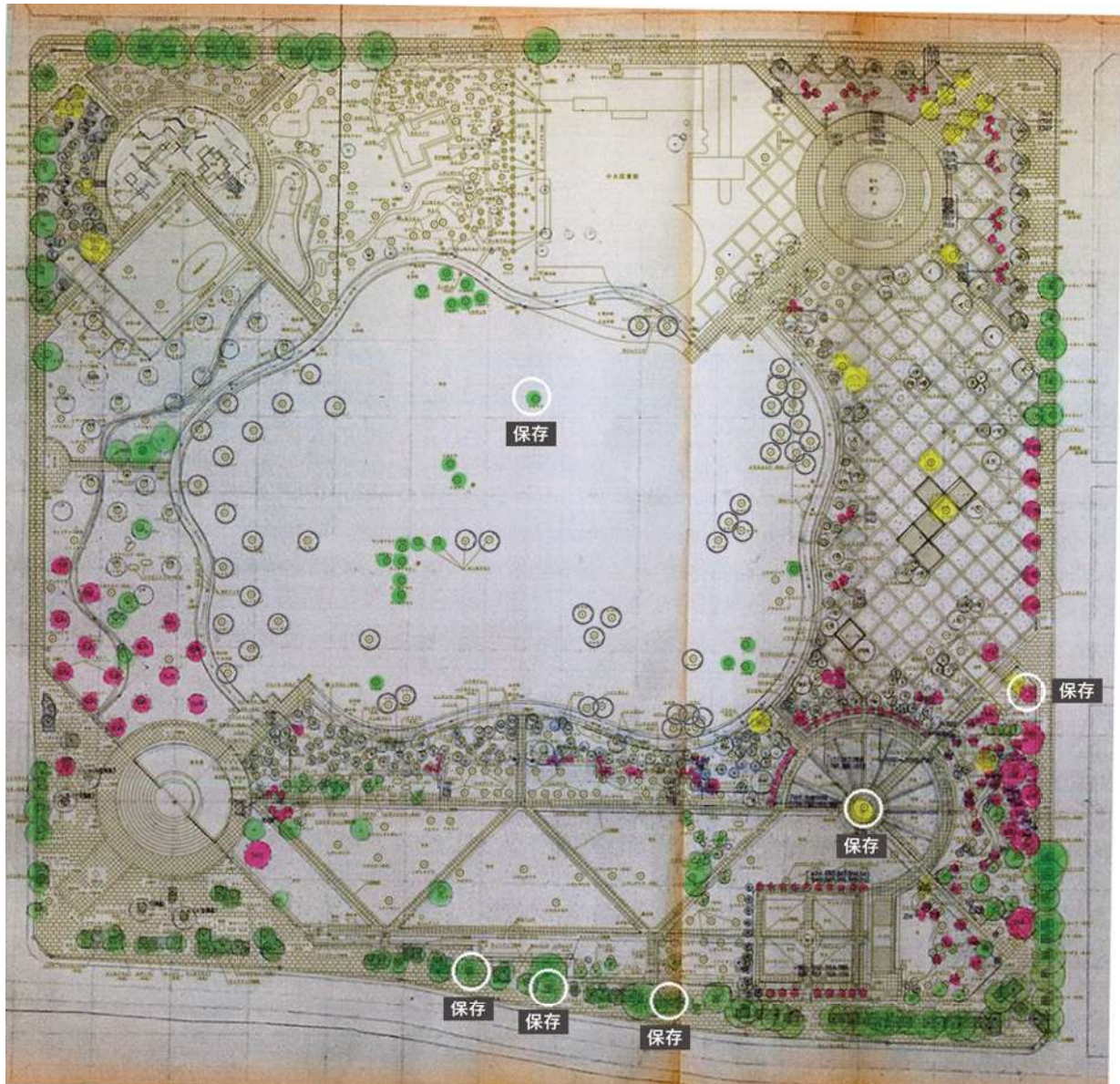
岐阜大学時代に近隣の植物園に生植していた樹木を、公園整備の際に計画に合わせて園内に移植されたもの。樹木単体での歴史はあるものの、別敷地内で育った歴史を持ち、今生植している場所に対する歴史も既存樹よりも浅いため、残すべきか検討する余地のある樹木である。

・公園整備時代の新設樹

公園整備の際に計画に合わせて新たに植樹された若い樹木。樹木単独での歴史が浅く、その場所に対する歴史も浅い。そのため、移植・または伐採の可能性も含めて柔軟に樹木計画をしていくべき樹木である。

・公園運用開始後の新設樹もしくは移植樹

公園整備の際には計画されていなかった樹木であるが、運用開始後に随時植樹されてきたもの。場所に対する歴史が最も浅い。記念樹を随所で受け入れていることもあり、無秩序に植樹されているものが多い。リニューアルに合わせて優先的に方針をみなおす樹木である。



[凡例]

●	岐阜大学時代からの既存樹
●	岐阜大学時代の園内からの移植樹
●	岐阜大学時代の植物園からの移植樹
○	公園整備時代の新設樹
○	公園運用開始後の新設樹もしくは移植樹
保存	保存樹林指定された樹木
	公園整備時代の平面図
	現在の公園平面図

図：植樹背景別にみる樹木の分布状

(※芝生広場内の樹木については過去の図面がないため、航空写真と照合した上で既存樹かどうかの判定をした)

② 無秩序に植樹された記念樹

「公園運用開始後の新設樹もしくは移植樹」のうち、記念樹の植樹がメモリアルガーデンを中心に行われている。記念樹の植樹については、植樹したい人がその後も維持管理をしていく条件の基で随時受け入れており、植樹の場所や樹種に一定のルールを設けていないことに問題がある。



図：メモリアルガーデンに植樹された記念樹

③ 樹木の健康状態

公園内の草木の中でも健康状態が良好でないものに次の2つがあげられる。

・見直しが必要な桜

園内の桜の多くが老木であり、寿命を迎えるものも多い。また、新境川周辺の桜にコブ病が蔓延しており、密植状態の園内の桜もその殆どが発症している。現在、効果のある薬剤等による防除法は確立されておらず、時間の経過とともに悪化の一途を辿ると言われている。

市民公園はお花見スポットとして認知度も高く、今回のリニューアルで、観賞用として残すもの・移植するもの・伐採するものを見定める必要がある。

・芝生に浸食している外来種の繁茂

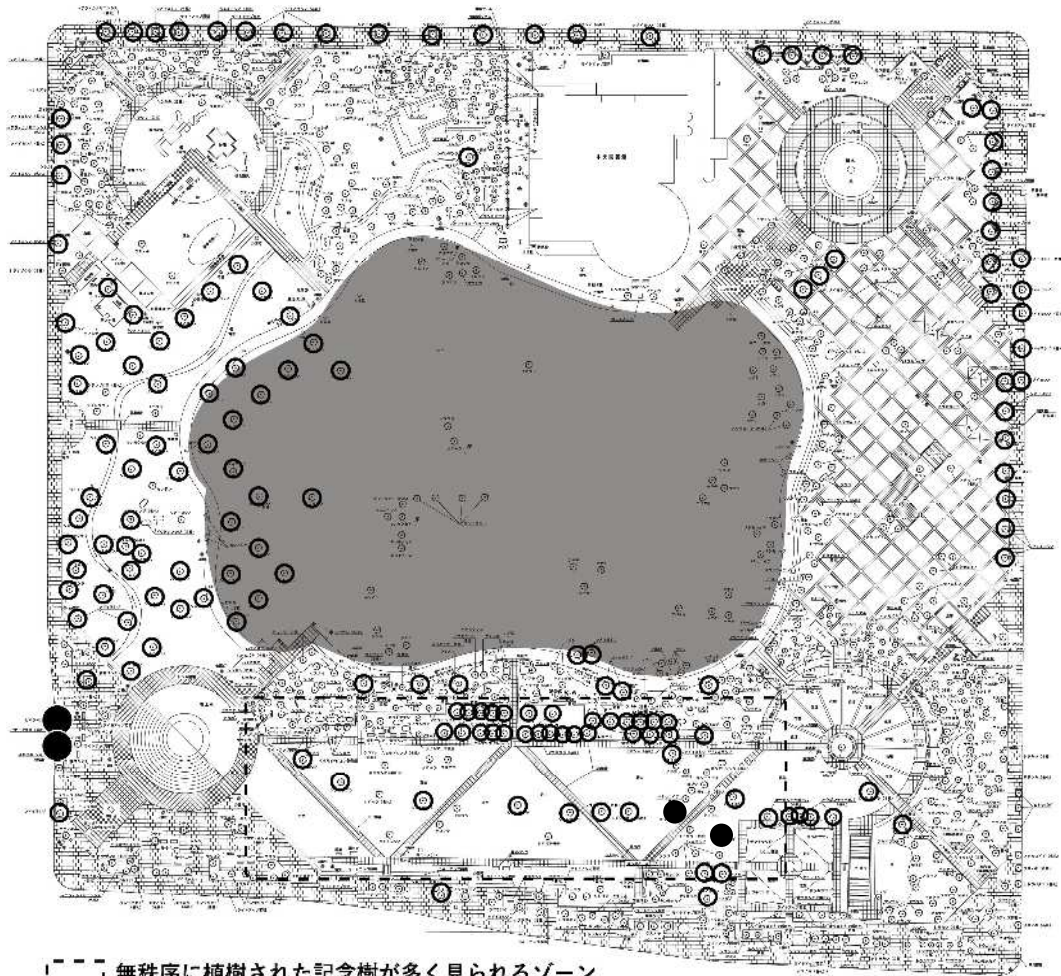
市民広場の芝生に外来種のメリケントキンソウが繁茂している。硬いトゲを持つメリケントキンソウは、芝生の上を裸足で走り回ると肌に刺さり怪我につながる恐れがある。全ての芝生を入れ替えるには費用負担が大きいいため、状態をみながら整備をするべきかの方針を検討する必要がある。



図：桜のコブ病



図：芝生に繁茂するメリケントキンソウ



[- - -] 無秩序に植樹された記念樹が多く見られるゾーン

○ 現在の桜の木のプロット（コブ病による被害）

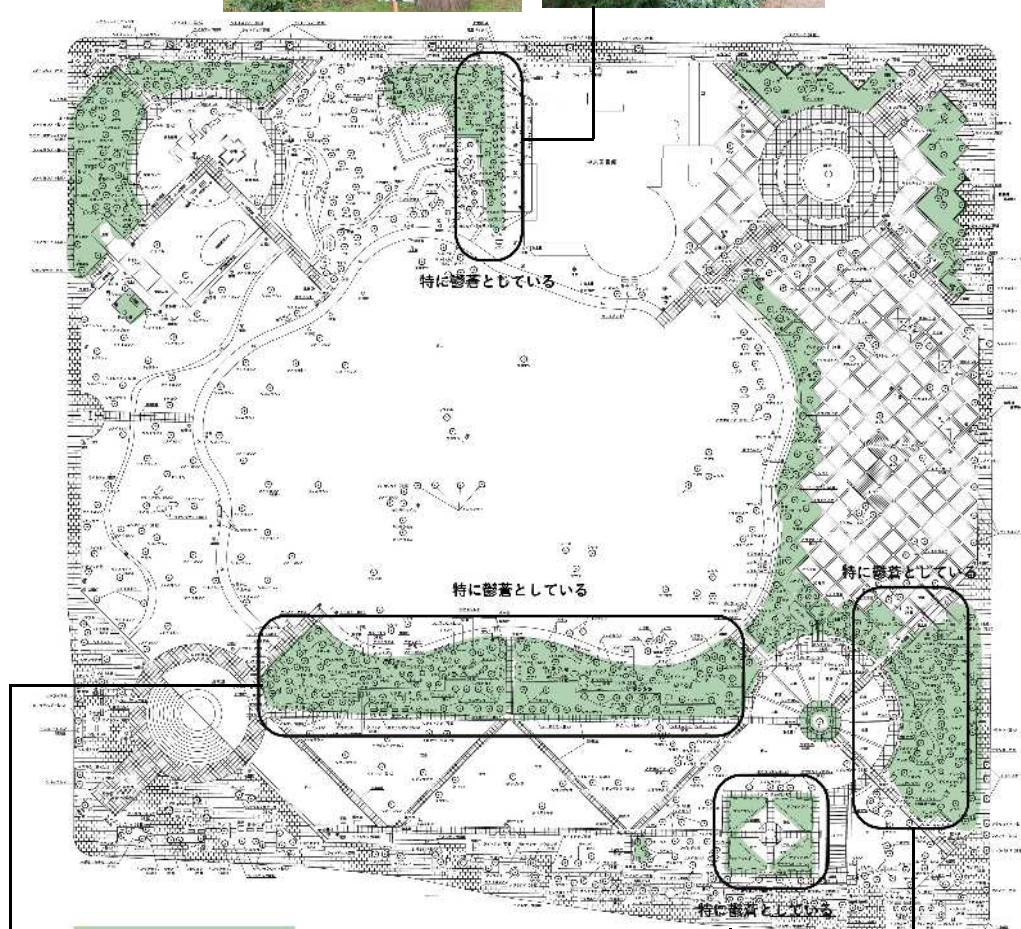
● 倒木の恐れのあるヒマラヤスギ

■ 芝生広場にみられるメリケンキンソウの繁茂

④ 樹木の維持管理状態

i) 管理の行き届いていない樹木群

現地調査により、草木が鬱蒼としているゾーンがみられた。アンケートからも「鬱蒼として暗くいて怖い部分がある」という声も聞かれていることから、樹木計画にて整備方針を検討する必要がある。



鬱蒼としているゾーン

- ・ 樹木が密集しすぎていて暗い場所
- ・ 視認性を悪くしている樹木がある場所（カイヅカイブキ・塊になったツツジ等）
- ・ 下草が長く生い茂っている場所



ii) 樹形の損なわれた樹木

ケヤキ等の落葉樹に切詰剪定が行われており、自然樹形が壊れ、美観を損なっているものが多くみられた。一方で、ヒメシャラやサルスベリ等の樹種においては非常に良い形状に樹形が維持されているものが多くみられた。リニューアル整備においては、剪定状況が悪く形状回復が困難なものは伐採も考慮し、剪定状況が良く景観的にも美しいものはより活かすことを検討すべきである。



図：成長点を切られ樹木の形状が暴れた櫟



図：成長点を維持した剪定による美しい樹形の櫟

iii) 根上りや幹の肥大化した樹木

根上りにより舗装等の損傷や幹の肥大化による縁石及びツリーサークルの損傷がみられる。

iv) 慎重に経過観察すべき高木

ヒマラヤスギは樹種の特徴として根の分岐がまばらで土を掴む力が弱く、他の公園において台風等による倒木が報告されている。園内のヒマラヤスギについては街路沿いに生えているものもあり、今後慎重に経過観察すべきといえる。

【樹木管理の観点からみるリニューアルする上で考慮すること】

樹木の現況および樹木医ヒアリングにより、リニューアルする上で考慮すべきこととして以下の4点が得られた。

1. 植樹背景を考慮した新たな樹木計画
2. 無秩序に移植された記念樹の整理
3. 樹木の健康状態
4. 景観を含む樹木の維持管理

3-3 未来の市民公園に対する市民意識

3-2までは市民公園の歴史と現況をまとめたが、ここでは、リニューアル(=未来)に対する市民意識をまとめる。調査は市民アンケートとワークショップ(4章にて後述するパークリノベミーティング)により行った。

a.市民アンケート

未来の市民公園に対するアンケートのなかでも、「リニューアルに期待すること」と「市民公園でやりたいこと」の2つの質問に着目し市民意識の傾向を捉えた。

1) リニューアルに期待すること

リニューアルに期待することとしてあげられたものには、3-2でまとめた現況に対する意見に類似するもの(グレー部)と、本質問で新たに得られたもの(黄色部)の2種類に分類した。

【現況に対する意見(3章)に補足されたこと】

遊具 幅広い年齢層が使えることを重視した意見が多く得られた。

図書館(周辺) 外の読書スペース、自習機の充実等、公園に図書館の機能が延長するような意見が多く得られた。

樹木の整備 下枝の位置を調整し視認性を良くするといった、鬱蒼として茂った部分の具体的な整備方法を示す意見が得られた。

休憩できる場所 屋根や東屋の日陰の下といった、具体的な休憩する場の空間を示す意見が多く得られた。

【新たに得られた意見】

今のままで良い、あまり変えてほしくない

図1よりシニア世代で主に得られた意見である。図2より、シニア世代については「市民公園でやりたいことがある」と回答した人も比較的少ないため、主に散歩といった現状の使い方(3章より)ができれば良いと考えていることが分かる。

スポーツできるスペース スケートボードのようなアーバンスポーツから、バスケットボールやサッカーといったメインスポーツまで幅広いスポーツの意見が得られた。

表1 市民公園のリニューアルに期待すること(自由記述)

市民公園のリニューアルに期待すること	回答数
遊具・遊び場の充実、未就園児用、大きい子用の遊び場をつくる	114
トイレを綺麗に、新しく、清潔に	54
飲み物、食べ物を買える場所(売店、カフェなど)	37
イベントの充実	34
今のままで良い、あまり変えてほしくない	31
図書館(周辺)の整備(外の読書スペース、公園との一体利用、自習機の充実)	29
自然の充実、樹木の整備(下枝の位置調整など)	26
スポーツできるスペース(スケボーパーク、バスケコート、サッカーなど)	25
日陰の下で休憩できる場所、屋根、東屋など	24
安心できる、安全性の向上	22
設備の充実	18
動物と触れ合える場所、ドックラン	18
座れる場所が増える(ベンチなど)	14
バリアフリー、ユニバーサルデザイン、使いやすい	14
何かものを買える場所(コンビニなど)	10
屋外ステージ	10
BBQコーナー	8
室内スペース	8
明るくなる	7
駐車場が充実する	7
管理を充実させる	7
授乳スペース	7
散歩コース	5
学生のためのスペース	3
その他	207
未回答	246
アンケート回答者数	810

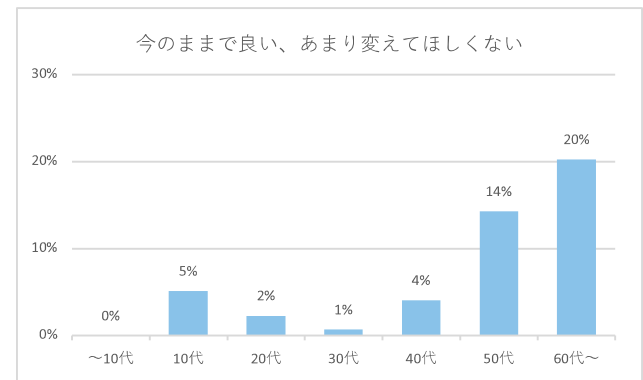


図1 世代別にみる「今のままで良い」という意見

2) 市民公園でやりたいこと

市民公園でやりたいことがあると回答した人に何がやりたいかを聞いたところ、世代別と性別ごとに回答の傾向に差が見られた。以下に代表的な「やりたいこと」と「属性」の関係をまとめる。

【BBQ】

最も多くあげられた意見であり、主に若い世代において男女問わずあげられた。

【マルシェ・フリーマーケット】

20代をピークに30～50代であげられ、そのほとんどが女性からあげられた意見である。

【キャンプ】

主に10歳以下であげられ、差はあるものの男女問わずあげられた意見である。

【屋外映画上映】

主に20代～50代であげられ、差はあるものの概ね男女問わずあげられた意見である。

【ヨガ】

40・50代を中心にあげられ、主に女性からあげられた意見である。

【アーバンスポーツ・メインスポーツ】

主に10代や男性からあげられた意見である。
(※アーバンスポーツとメインスポーツはまとめて傾向を捉えた)

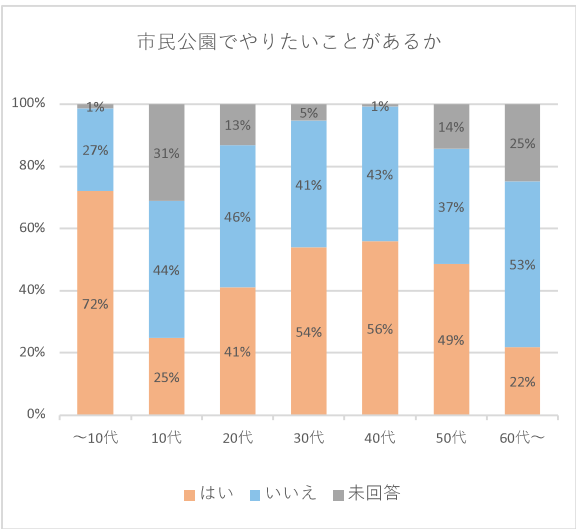
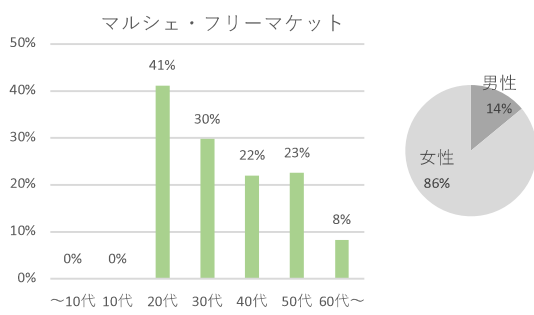
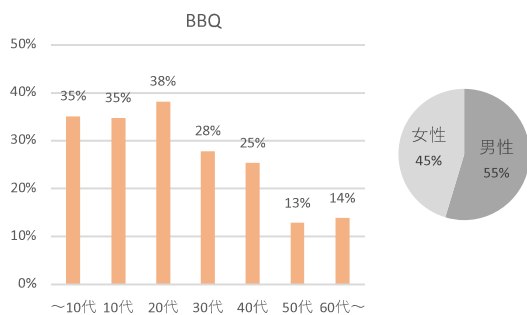


図2 世代別にみる市民公園でやりたいことの有無

表2 市民公園でやりたいこと（自由記述）

市民公園でやりたいこと	回答数
BBQ	93
マルシェ、フリーマーケット	68
キャンプ	56
屋外映画上映	50
ヨガ	40
本の読み聞かせ、読書	19
アーバンスポーツ（スケートボードなど）	18
野外ライブ、音楽演奏	16
メインスポーツ（テニス、サッカー、野球、バスケ等）	15
スポーツ大会	12
散歩	7
その他	96
未回答	469
アンケート回答者数	810



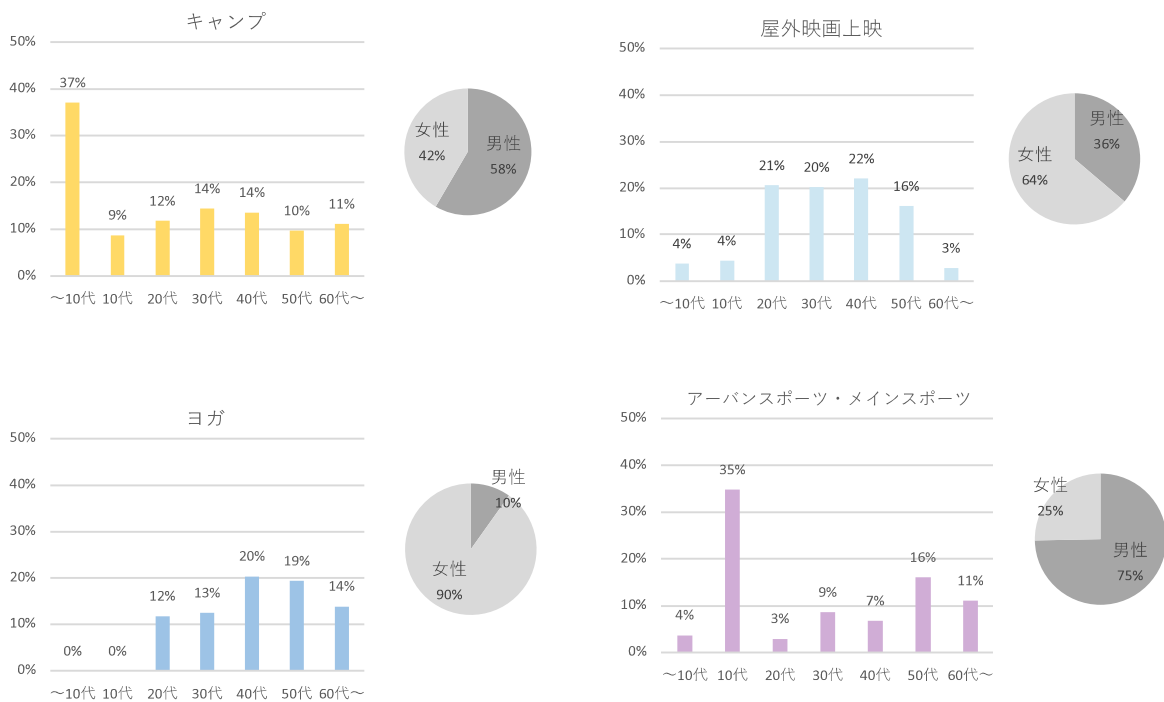


図 3.世代別・性別にみる市民公園でやりたいこと

考 察

若い世代や男性にはアウトドアやスポーツといったより動的な過ごし方への需要があり、ミドル世代以上や女性には映画やヨガといったより静的な過ごし方への需要があると言える。このように、未来の市民公園に求められる過ごし方の性質は属性により異なるため、公園の新たな使い方を検討する上では「どの場所がどんな人のどんな過ごし方を受け入れるか」を見極め、それぞれの場所に適宜役割を与えていくことが重要である。

b.市民ワークショップ

より主体的に市民公園について考えてくれる人の意見を聞くために、市民ワークショップ(4 章にて後述するパークリノベミーティング。以後 PRM と略す)を行った。PRM では、フィールドワークとテーブルワークにより、場所の使い方の可能性探しや市民公園で自分がやりたいことのアイデア出しを行った。



場所の可能性を探るフィールドワークの様子



やりたいことのアイデア出しの様子



やりたいことを地図にプロットする様子

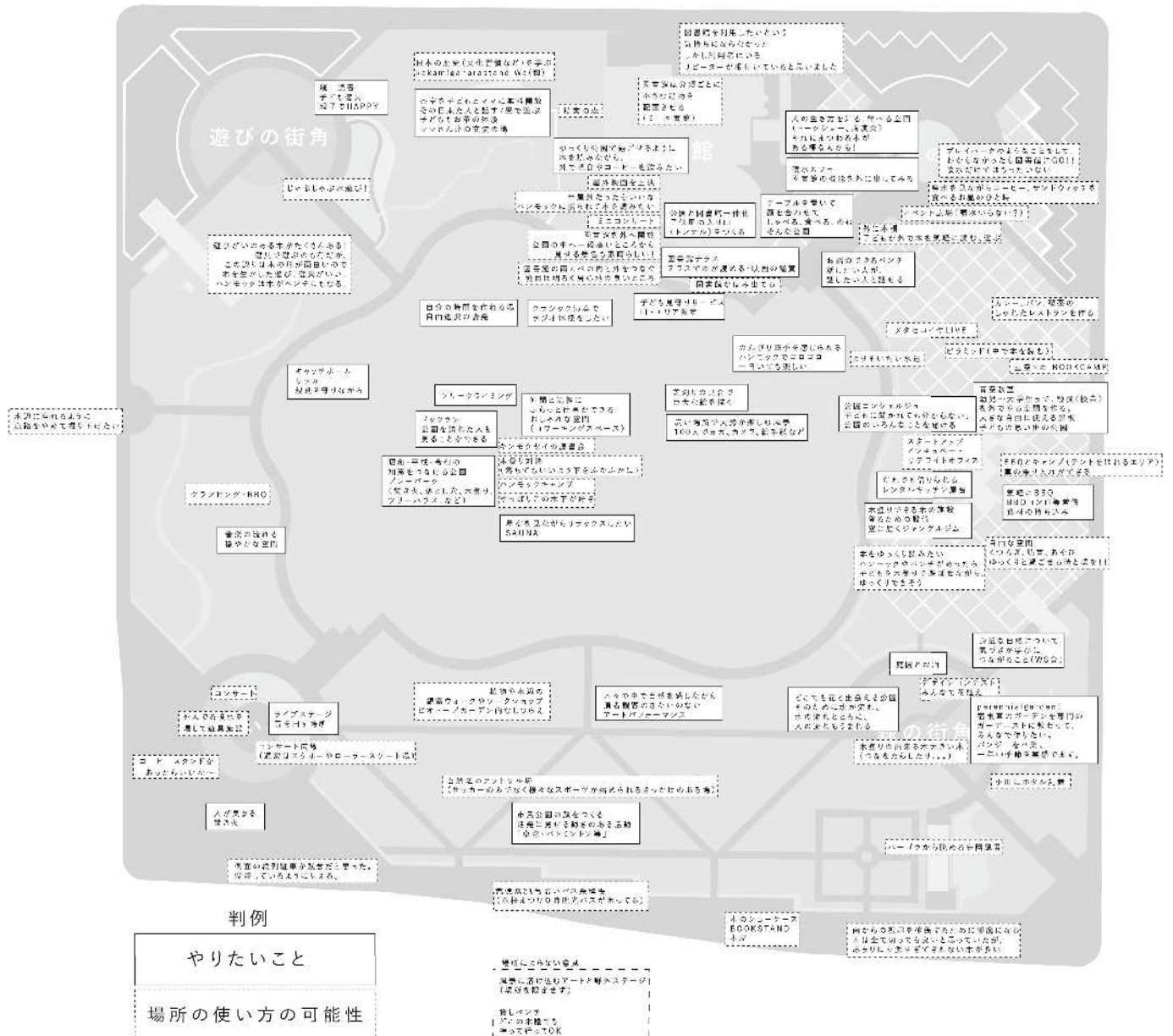
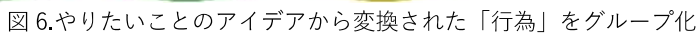
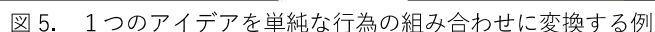


図 4.PRM で得られた使い方の可能性とやりたいことのプロット図

参加者にやりたいことを地図にプロットしてもらった結果、ゾーンごとに類似するアイデアがみられた。そこで、各ゾーンの使い方の可能性を捉えるために類似するアイデアのグループ化を行った。グループ化にあたっては、図 5 で示すように、1 つのアイデアを一度単純な行為の組み合わせに変換し、その後、同じ行為を囲むこととした。行為のグループ化の結果を図 6 に示す。



以下に、やりたいことの行為のグループから考えられる各ゾーンの使い方の可能性をまとめる。

【思索の街角南部から緑の街角北部】

食べるという使い方が全体的に多くみられた。特にメタセコイアがまとまって植生されている辺りでは、作って食べる、遊ぶといったアウトドアとして使い方の可能性が得られた。

【緑の街角】

自然を眺める使い方が多く見られたが、中心部では自然を育てるといった使い方の可能性が得られた。

【メモリアルガーデン】

運動する、自然をながめるといった使い方の可能性が得られた。

【出会いの街角】

既存のすり鉢状のステップガーデンを利用した発表を楽しむという使い方の可能性が得られた。また、メモリアルガーデンからのつながりで、運動するといった使い方の可能性も得られた。

【お花見広場】

自然を眺める他にくつろぐ場としての使い方の可能性が得られた。

【遊びの街角】

単なる遊ぶ使い方だけではなく、自然を使うといった使い方の可能性が得られた。

【日本庭園・茶室】

遊びの街角からの延長として見守る場としての使い方の可能性が得られた。

【図書館周り】

本を読むという使い方が集中的にみられ、外で本を読むという使い方の可能性が得られた。また、映画をみる、発表を楽しむ、食べるといった使い方の可能性も得られた。

【広場の中央】

金木犀が植生するあたりで特に遊ぶ使い方の可能性が得られた。

開催日時	人数	手法	内容(テーマ)
2019.12.14(土) 10:30-12:30	49 人	レクチャー	各々が描く未来の市民公園のイメージをする
13:30-16:00	25 人	フィールドワーク	市民公園のポテンシャルをみつける
2019.12.18(水) 19:00-21:00	22 人	ワークショップ	市民公園で「やりたいこと」のタネをひろう
2020.01.08(水) 19:00-21:00	13 人	ワークショップ	市民公園で「やりたいこと」のタネをひろう
2020.01.22(水) 19:00-21:00	14 人	ワークショップ	市民公園で「やりたいこと」のタネをひろう
2020.02.01(土)13:30-16:00	20 人	ワークショップ	市民公園で「やりたいこと」のタネを選ぶ
2020.03.01(日)10:00-15:00	36 人(予定)	実証実験	※社会情勢を鑑み見送り

c.市民公園でやりたいことのまとめ

アンケートと PRM により得られた市民公園でやりたいことについて、ひとつひとつのアイデアを行為の組み合わせに変換したところ、行為と行為に様々なつながりが見られた(図 7)。また、PRM において「今はなぜできないか」と聞いた所、「それぞれの場所が独立しているから」「やりたいと思える空間になっていないから」といった意見が多数聞かれた。このことから、現状は複合的な使い方が成立されにくい空間である可能性が高いといえる。

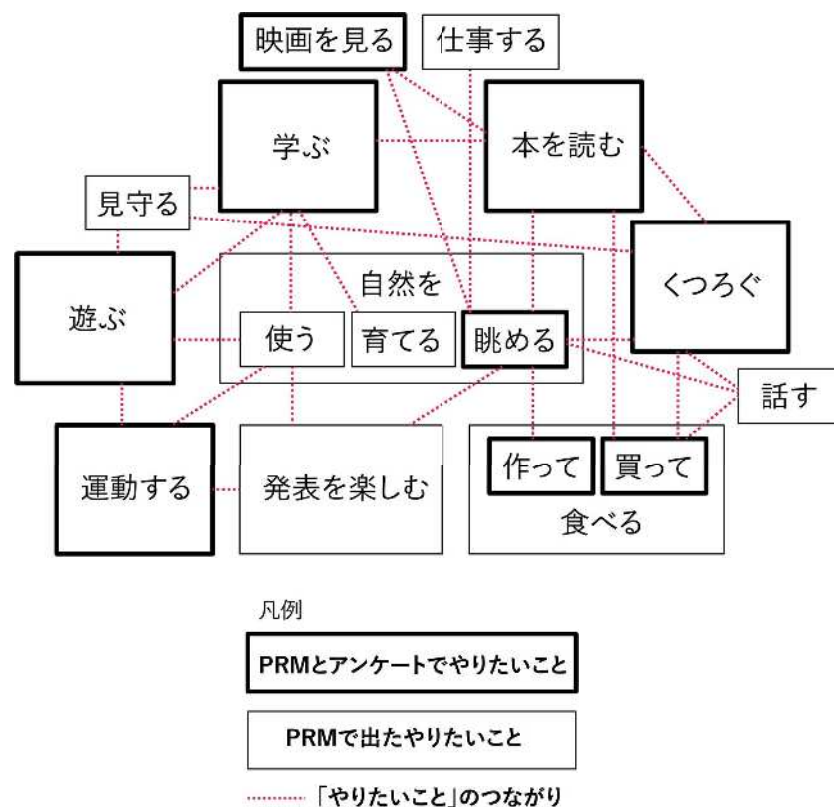


図 7. PRM とアンケートで得られた「やりたいこと」の行為とそのつながり

以上より、未来の市民公園に対する市民意識の調査から、リニューアルする上で考慮すべきこととして以下が得られた。

1. 行為と行為をつなぐきっかけをつくる

2章・3章より得られた、リニューアルする上で考慮すべきこと

歴史・経緯及び行政計画

1. 岐阜高等農林学校・岐阜大学時代からの歴史継承
 - ・クニハガーデンの維持保全
 - ・樹木の維持・保全
2. 岐大跡地整備の歴史継承
 - ・広場と公園という骨格
 - ・文化施設と公園を一体利用すること
3. 行政計画等
 - ・市民協働
 - ・学びの森を含めたエリア一体でのオープンスペース活用

市民アンケート（現況）

1. 誰もが使いやすいトイレに改修
2. 親子のための遊べる場所・飲食物を買える場所の充実
3. 学生のための友達と過ごせる場所（図書館周り）の充実
4. ミドル世代以上のための一人でも過ごせる休憩場所（園路沿い）の充実
5. 芝生広場は市民公園の骨格である
6. 公園と図書館の一体的な利用をめざす
7. 低利用・無意識ゾーンの役割の見直し

関係者ヒアリング（イベント利用）

1. 車両の乗り入れができる場所の確保
2. 園内の搬入経路の確保
3. 必要な場所への給排水設備・電源の確保

関係者ヒアリング（樹木管理）

1. 植樹背景を考慮した新たな樹木計画
2. 無秩序に移植された記念樹の整理
3. 樹木の健康状態
4. 景観を含む樹木の維持管理

市民アンケート・ワークショップ（未来）

1. 行為と行為をつなぐきっかけをつくる

4. リニューアルの基本方針

4-1 リニューアルの考え方について

a. 基本コンセプト

リニューアルの計画を進める上で、公園そのものが魅力的になることはもちろん、周りのまちづくりもイメージしながら考える必要がある。幅広い世代の方が関わり、新たな市民公園をつくりあげることで、個性と活力のあるまちがつくられていくと考えられる。

市と市民がパートナーとなり、公園という場を通じて、人と人がつながり、次の世代へ魅力的な風景を引き継いでいけるような「こどもに見せたい風景がある公園」を目指す。

基本コンセプト

こどもに見せたい風景のある公園 ～公園でまちと人がつながる～

b. 基本方針

前章までに整理した、リニューアルする上で考慮すべきことと基本コンセプトを踏まえ、「つなぐ」をキーワードに基本方針を以下のように整理した。

基本方針

1. 歴史・時間をつなぐ

- ・ 広場と公園という骨格を活かした空間構成とする
- ・ クニハガーデンや保存樹木などを活かしたリニューアル計画とする
- ・ 文化施設と公園の一体的利用を想定した計画とする
- ・ 現在進行系として、利用者とともに公園をアップデートできるしくみをつくる

2. 風景をつなぐ

- ・ 学びの森を含めたエリア一体でのオープンスペースを活用し周辺エリアの価値向上を図る。
- ・ 多様な利用を許容し、単独の活動で完結しないストーリー性のある利用を促す計画とする
- ・ 視線が通い合う連続した風景を計画する
- ・ 互いの存在を認識することによる居心地の良さ（距離感）の計画する

3. 人（アクティビティ）をつなぐ

- ・ 公園に多様な活動を受け入れるためのしくみをつくる（＝PRM）
- ・ 多様な活動を受け入れる有機的な形状をもつ広場計画とする

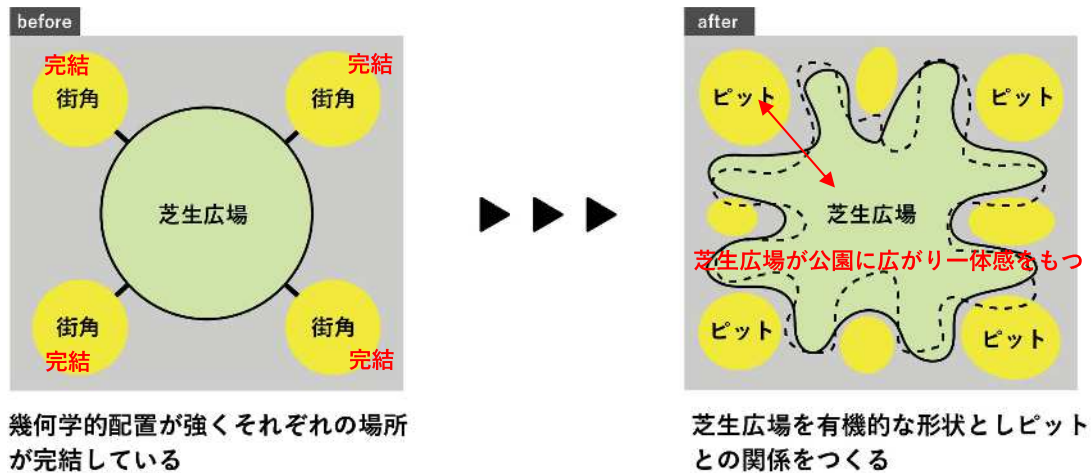
c. 周辺環境との関係性

市民公園整備以降に敷地を取り巻く状況の変化を鑑み、本リニューアルにおいて重視すべき周辺環境を整理した。近年、学びの森を中心とした賑わいにより、主動線は敷地北側に大きく偏ってきており、中でも一体のオープンスペースとして捉えられる**北側からのアプローチ**が重要である。また、北・北東には駐車場が整備されており、駐車場からの動線も考慮すると、**敷地北東角がリニューアル後の市民公園の顔**として整備されるべきエリアであると言える。また名鉄市民公園前駅からは北西角へのアプローチとなり、駅の移転が中止されたため、今後も現在の動線が継続されることに配慮する必要がある。敷地東側は都市計画道路の廃止により、通過交通が抑制された状況にある。道路には時間貸し駐車場が整備されており、公園に自動車を横付けできる形となっているが、公園と周辺環境との一体感を阻害している状況にある。道路への駐車については、観光バスの乗降スペースなどに限定し、一般車両の駐車は周辺の市営駐車場に誘導することで、公園東側はどこからでも寄り付くことが出来るようにし、周辺環境となじませることが考えられる。西側は桜の寿命が近い状況であるが、新境川の百十郎桜との一体的保全を検討する必要がある。南側は駐車場などアクセスの動線が確保されておらず、利用者が少ない状況である。しかし、これまで市民公園の顔として扱われてきており、公園の風格を感じさせるモニュメントも数多くあることから、自動車交通に配慮しつつ、利用率を高めることを検討する。



d. ゾーニングの考え方

現在の市民公園のゾーニングは、芝生広場を中心に4つの街角が配置されているが、幾何学的図式が強く中心を持つため、それぞれの場所が単独で完結してしまっている。公共空間での過ごし方や活動が多様化する中で、芝生広場とそれぞれのアクティビティの接点を出来るだけ長くとり、互いに関係をつくりやすくすることが風景をつなぐために重要である。ここでは中央の芝生広場を枝葉のある有機的な形状をもった空間とすることで、芝生広場と囲み取られた空間（＝ピット）との多様な関係をつくることとする。

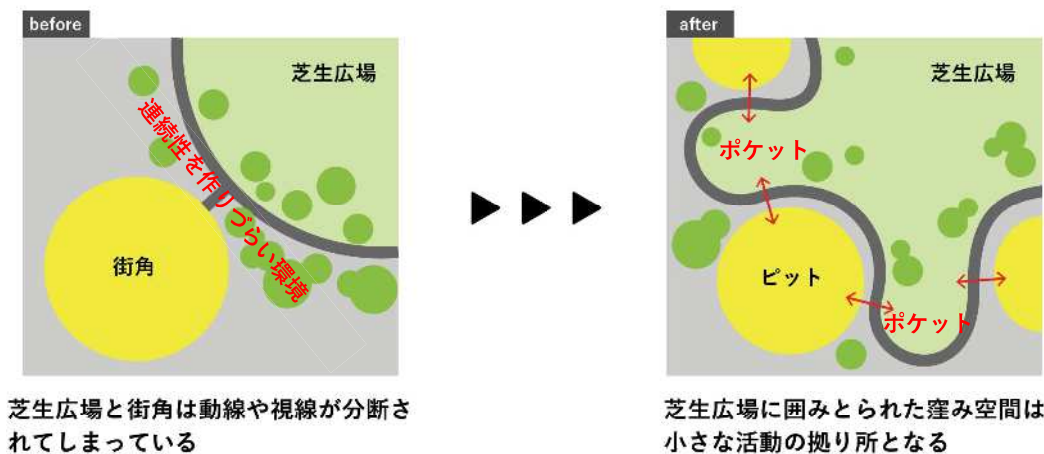


芝生広場を中心とした骨格を残した新しいゾーニング

枝葉部分である空間（＝ポケット）は隣接するピットとの相互作用により、それぞれが個性をもつ。公園全体としては個性が集合した多様な広場としての性格をもつこととなる。

画一的な空間 → 一体感のある多様な空間

芝生広場と街角は、現状では木々により視線が遮られていることや、接続する動線が限られていることで、相互の関係が分断されており多様な活動を誘発しづらい状態となっている。リニューアル案では、今までにはなかったポケットによって小さな活動の拠り所を計画する。これにより、パークリノベミーティング等で提案された多様な活動の受け皿となることが想定される。



有機的な形状をもった芝生広場が新しい風景をつくる

e. 市民公園と文化施設（図書館）の関係性

1) 文化活動の拠点として

第2章で述べたとおり、市民公園の一つの役割に「文化活動の拠点」となることが挙げられている。結果、文化施設として図書館が計画され、現在も運営されているが、基本設計当初に検討されていた公園と連動した空間構成ではなく、広場を背にした平面計画で、実際の利用も公園と図書館の関係性は希薄である。本リニューアルでは、文化活動の拠点としての公園の役割を図書館とのつながりをデザインすることで再構築することが重要である。

2) 図書館があることの立地優位性を活かす

近年、図書館のあり方も「課題解決型」や「気軽に立ち寄りゆったり過ごせる滞在型」、「地域コミュニティ形成を支援する」など単に本を貸出す場ではなく、地域を支える情報拠点となっている。図書館が公園と連携し、互いの環境を使い合うことでサービスや魅力が向上し、ひいてはまちづくりに寄与することも考えられる。他市町村においても、公園一体型図書館として、別敷地にあった図書館の公園内への移転や、既存図書館を公園に開くリニューアルが始まっている。

3) 運営者のあり方について

基本方針でもある「人（アクティビティ）をつなぐ」を実現させるためには、公園および図書館の来場者同士のみならず、その運営側のあり方が強く影響する。公園と図書館は本来管轄が分かれており、情報交換のチャンスが少ないため、連携のイメージが湧きにくい。今後は、空間のしつらいだけでなく、互いの持ち場を活かした使い方など業務を越えた議論や活用方法の実験などを行い、最終的には市民目線で文化活動の拠点を目指すことが求められる。

【参考事例】

・佐賀城公園リノベーション（2018年3月完成）

「居心地の良い日常の図書館公園」をコンセプトに賑わう空間を創出するため、県立図書館と公園をつなげた事例。ゆっくりと腰掛け、広場を眺めながら本を読んだりできる「階段デッキ」を配置し、図書館についてもデッキに面した部屋をフリースペースに改装して開放したことで、図書館と公園をつなぐ快適な動線及び視線の確保をおこなった。図書館と公園など、管理者が違う庁内各部局を政策部局のさがデザイン担当が横断的に調整し、公園の再整備だけでは成しえない居心地の良い空間を実現した。

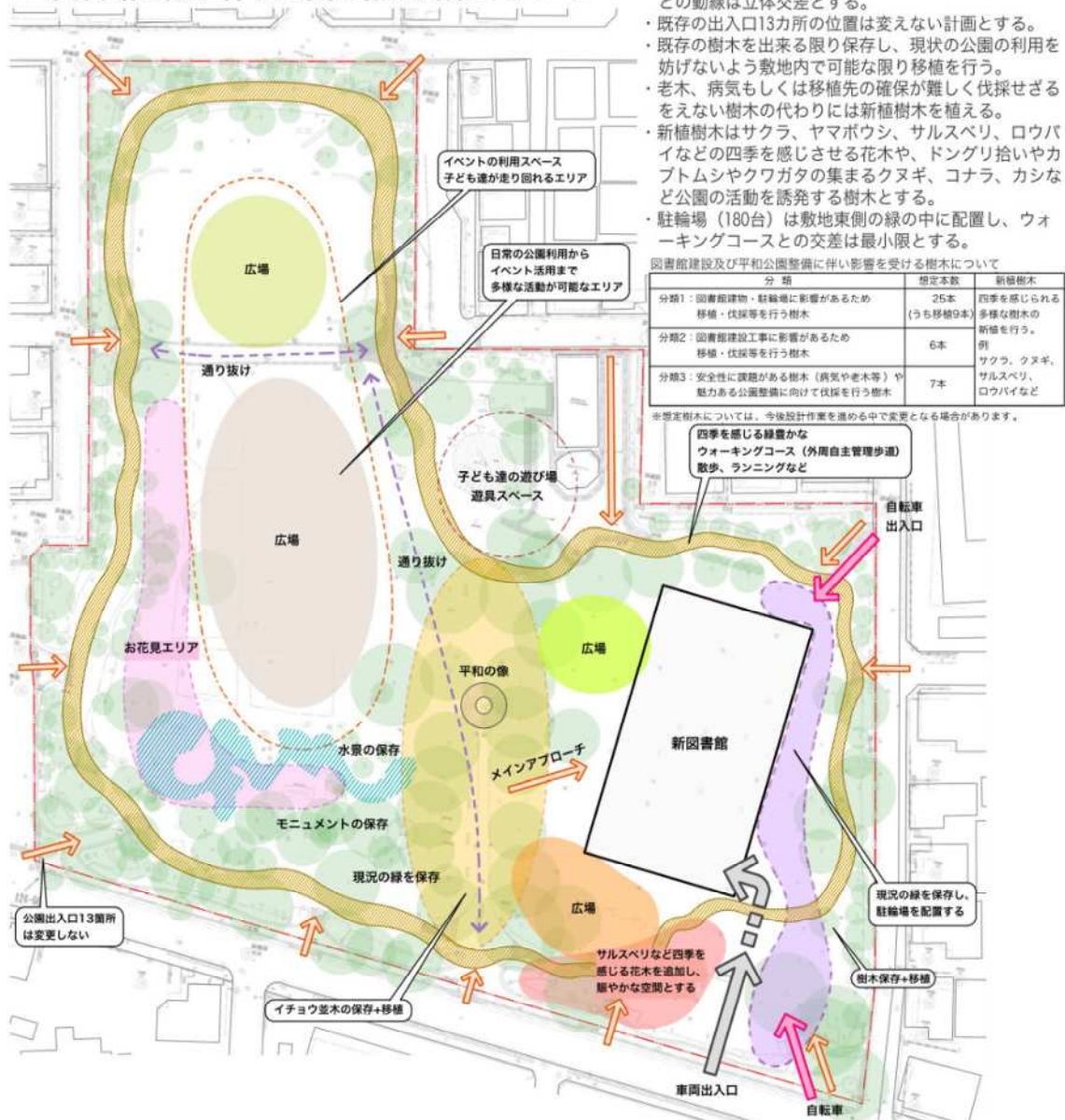


(出典：openA)

・板橋区中央図書館再整備（現在建設中）

旧東京教育大学（筑波大学の母体）の寄宿舎の跡地で、平和希求の目的で地域の署名により昭和61年に公園となった板橋区平和公園（面積は約1万8600m²）への移転。建設に伴い、ウォーキングコースの設置などを整備する。建物の1階部分は、公園とつながり、にぎわいと活気のある「動」のスペース。ここには、こどもが声を出して本を読める児童図書スペースを広く確保し、図書館と公園の利用者のための交流や飲食の場として、カフェや屋外テラスも設ける。さらに、映画会や講演会などのイベント開催、「ボローニャ・ブックフェア in いたばし」をはじめとする多目的の展示スペースの設置もする計画。重点テーマの一つは「地域のコミュニティ形成を支援する図書館」として、イベント開催や区民が情報交換を行う場を提供するほかにも、災害時の地域の防災拠点としての役割も果たしていく。さらに「板橋の魅力“緑と文化”」を象徴する図書館」として水や緑などの環境と調和した読書環境や、海外の絵本の展示など、区の魅力を発信することを掲げている。

■ 図書館建設に伴う公園整備方針案について



（板橋区「魅力ある中央図書館建設だより」第8号（2017年11月）より）

牧方市香里ヶ丘図書館・中央公園再整備

図書館および公園を起点として、まちとつながる動線を設定することにより、近隣の公共施設や商業施設との連携を促し、都市機能の相互補完につなげることを目指す。図書館と公園の機能連携を強化することによって、多様な世代が活動の環を広げ、その相乗効果によって香里ヶ丘地区の活性化を推進する。『まち・人・風景それぞれを「つなぐ」というコンセプトのもと、図書館と隣接する香里ヶ丘中央公園との一体的整備でまちをブランディング化する』という提案により現在設計が進められている。



● 香里ヶ丘中央公園ゾーニングイメージ



4-2 ハード整備について

a.全体計画（ゾーニング）

2・3章までの「リニューアルする上で考慮すること」および、「4-1リニューアルの考え方」を踏まえ、芝生広場と有機的な関係を持つ8つのゾーンを設定した。

〈既存施設等の精査〉

劣化状況やアンケート、社会的ニーズを踏まえ、園内の構造物や樹木等の撤去・移設を精査した。整備にあたって特筆すべきものを以下に示す。

残すべき主な工作物：思索の街角の噴水／クニハガーデン／市民公園銘板

残すべき樹木等：第3章(p35)による

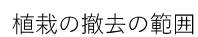
今後も検討を行いアップデートすべき主な工作物：出会いの街角の落水池

※基本計画では円形舞台としての位置付けは残した上で、落水池としての機能を廃止する。

今後、使い方など市民ニーズの検証を続け、費用対効果を踏まえ最終的な整備手法を決定する。



樹木の撤去



ゾーニングと平面計画

広場を中心に8つゾーンが展開されている。8つのゾーンには歴史的背景や立地条件、市民ニーズなどにより、それぞれに異なる機能が与えられた。各ゾーンは個別に完結するのではなく、公園全体として多様性を持つべく、ポケット（4-1, d (p.51)）を内包した有機的な広場と園路によって、ゆるやかにつながり、多様な人々と活動を受け入れる場所とする。

公園内を巡ることで見えてくる様々な風景があり、利用者動線に居場所のきっかけを誘発する場のデザイン（ベンチ、縁台、マウンド）を施し、居心地を向上させる。

「あるものは活かし、ないものをつくる」考え方で、樹木など既存の環境を活かし、市民公園とその周辺の風景をアップデートする。

〈新たに創出された空間〉

8つのゾーン／芝生広場に内包されたゾーンを緩やかにつなぐポケット空間／さまざまな風景を魅せる有機的形狀の園路／まちとつながり、居場所を持った外周園路

〈空間をつくる要素〉

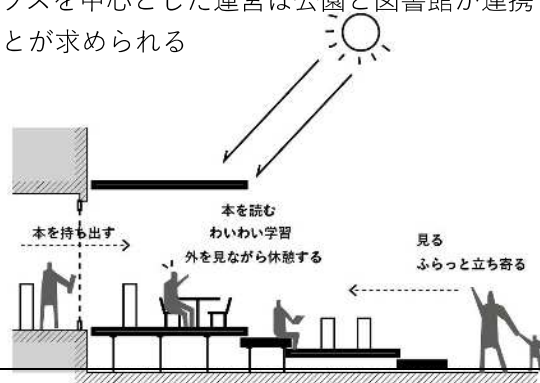
園路や木陰など自然と呼应するベンチ／視線や活動に考慮された築山／遊び場、休憩など使い方をを持った縁台／居場所を誘発する木陰・日よけ



8つのゾーンの利活用の考え方

ゾーンと機能	ゾーンの性格	利活用の考え方
①ゾーン A メタセコイアの リビング	メタセコイアがまとまって植生され、自然と都市空間が織りなす景観が印象的なゾーンであり、まちなかでゆっくり自然を楽しめるアーバンキャンプ、アウトドアキッチンなどの利用が想定される	【具体的な整備イメージ】 ・簡易なキャンプグッズやハンモック等を使って、木陰でのデイキャンプ ・大きな木の下を散策するボードウォーク ・日常的にキッチンカー等の移動販売車が寄付き、営業に必要な電気や給排水等のインフラ供給ができるスペース 【検討課題】 ・トイレのリニューアルに合わせた水場のあり方について（水を使ったワークショップ、手軽に屋外で食事を楽しむアウトドアキッチン等）
②ゾーン B まもり育てる ガーデン	クニハガーデンや岐阜大学時代からの樹木が多く残っていることが特徴的なゾーンであり、歴史ある緑をまもるという役割を残しつつ、新たに「育てる」という役割が求められる	【具体的な整備イメージ】 ・植物を育てることを通じて「つながり」が生まれる場でありコミュニティガーデンとしてリニューアルする ・花壇を愛でたり、作業の休憩に使い勝手の良いベンチ等くつろぎのスペース ・植物を育てるための誰もが使い易い水場やストレージ 【検討課題】 ・ガーデンの維持管理、その担い手の育成
③ゾーン C ウェルネス コート	旧国道 21 号に面した市民公園の顔として認知されるゾーンであり、健康をテーマとした「ウェルネスコート」とする 公園を利用したランニング等スポーツ利用者の拠点とも位置付けられる	【具体的な整備イメージ】 ・様々なスポーツに対応できる床仕上げと、休憩や観覧のためのベンチや水飲み場を整備する(ピット部) ・広場と連続したヨガや太極拳など軽スポーツのための芝生空間(ポケット部) ・遊具ゾーンにある健康器具の移設・新設 【検討課題】 ・卓球やスポーツコートなどの具体的な軽スポーツのニーズ調査と、設置すべきストリートファニチャー等の整理及び、使い方を含めたルールのアップデート ・公園で使用する備品の貸出や、飲み物等の売店、シャワーおよび更衣室の設置など、環境向上のための施設の設置を検討(PFI 制度等を含めた管理運営についても検討)
④ゾーン D 表現の ステージ	旧国道 21 号と新境川との交差点に面し、那加商店街との接点となるゾーン 円形舞台を踏襲し、「表現のステージ」として位置付ける	【具体的な整備イメージ】 ・園路や広場から雰囲気を感じ取れる既存の噴水広場を活かしたステージと客席の整備 【検討課題】 ・市民の表現の場として、今後も PRM を活用し、使い方など意見を聞きながら市民とともに作り上げる ・コストバランスに配慮したステージの仕様の検討(屋根、客席、音響等)

ゾーンと機能	ゾーンの性格	利活用の考え方
⑤ゾーン E 桜 ストリート	新境川に面し、市民が親しんできた百十郎桜と一体となった桜並木を活かしつつ、留まれる場として更新する	【具体的な整備イメージ】 ・歩道の幅を広げ、ちいさなたまり場やベンチを配置し、対岸の桜並木と呼応する場とする ・ストリートはポケットと一体で整備、まちと公園のつながりを緩やかにし、園路へ誘導する 【検討課題】 ・老朽化した桜の撤去および植替え
⑥ゾーン F プレイ コート	子育て世代の利用率、ニーズ共に非常に高く、環境の向上をもっとも期待されている水路や園路、健康器具によって広場と分断されていた遊びの街角が、広場とつながりを持つ拡張された場となる	【具体的な整備イメージ】 ・大地と空、自然にダイブするような、こどもたちの身体をダイナミックに使って遊べる遊具の設置や空間の創出 ・大小の起伏による地形のような遊具など、遊び方・対象年齢を限定せず、こどもが考えて遊べ、景観上も融合するデザインの遊具 ・異年齢のこどもが安心して遊べるゾーニング ・程よい日陰をつくり、保護者の見守り空間を確保
⑦ゾーン G 集いの縁側	屋内および縁側から広場を望むことが出来る茶室は、雨天かまわず利用ができ、集会等に活用しやすい	【具体的な整備イメージ】 園路および広場空間から引きをとり、建物が持つ風格を維持し、景観としてもなじませ、独自の利用を可能する 【検討課題】 ・茶室として設置された背景があり、多様な活用については運営方法の見直しが必要となる
⑧ゾーン H ブック & パーク	新たな市民公園の顔として、公園と図書館が交わり、憩う親水縁側空間 半屋外のブックテラス整備と共に、多様な場と、いろんなきっかけをもつ文化活動の拠点として市民公園をアップデートする	【具体的な整備イメージ】 ・既存噴水を活かしたキャノピーをもつ新たな居場所 ・図書館と公園を造形的につなぎ、なじませるデザインの園路やブックテラスおよびキャノピー ・公園と図書を結ぶ半屋外のブックテラス空間 【検討課題】 ・南側の円形の外壁・サッシをリノベーション ・テラスを中心とした運営は公園と図書館が連携して行うことが求められる



b. イメージスケッチ

鳥瞰パース



ゾーン C ウェルネスコート

point 1

旧国道 21 号線沿いにある。大きな樹木の足元を守り、美観に配慮し場となる植え込みベンチ

point 2

管理施設。公園で使用する備品の貸し出し。飲料などの販売、更衣室の施設をイメージ。民活も考えられる。(設置の要否・位置等は要検討)



point 3

園路沿いに設置される健康器具は思った時にすぐ使える

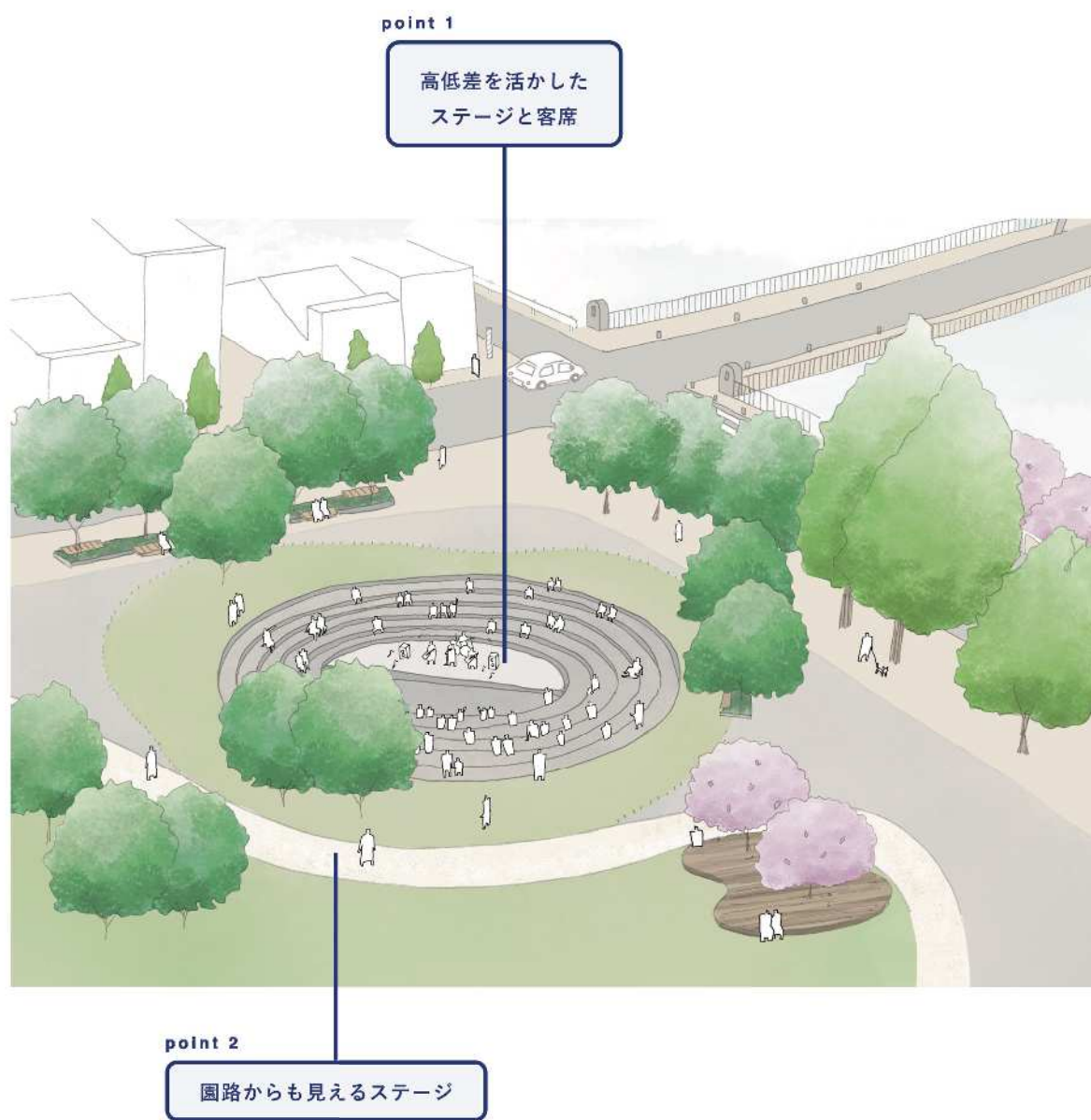
point 5

卓球やバスケットボール等、ニーズに合わせて、ハード整備やルールのアップデート

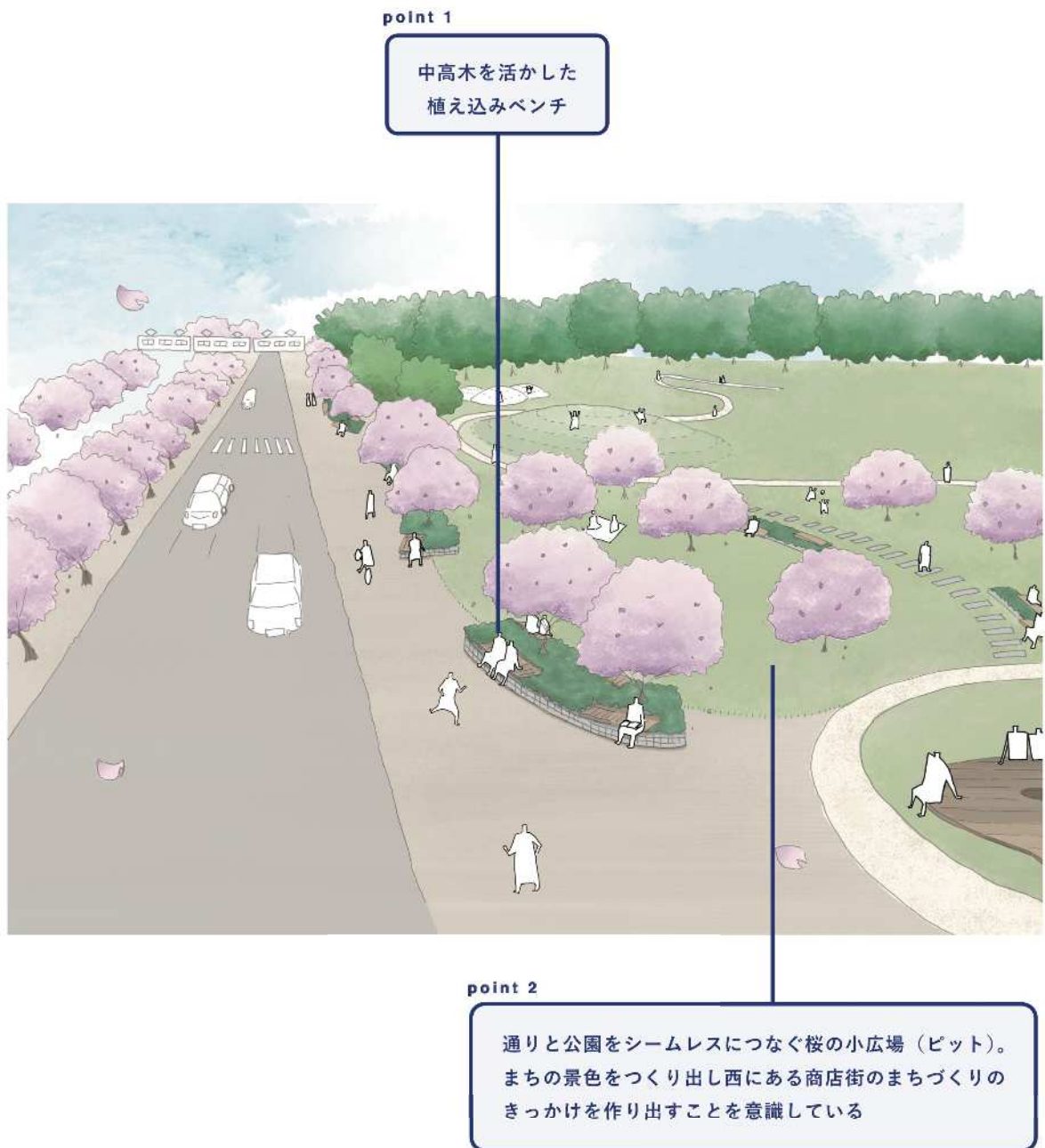
point 4

両面使いのベンチ。スポーツを楽しむ人を見たりスポーツをひた人が休憩する場所としても使える

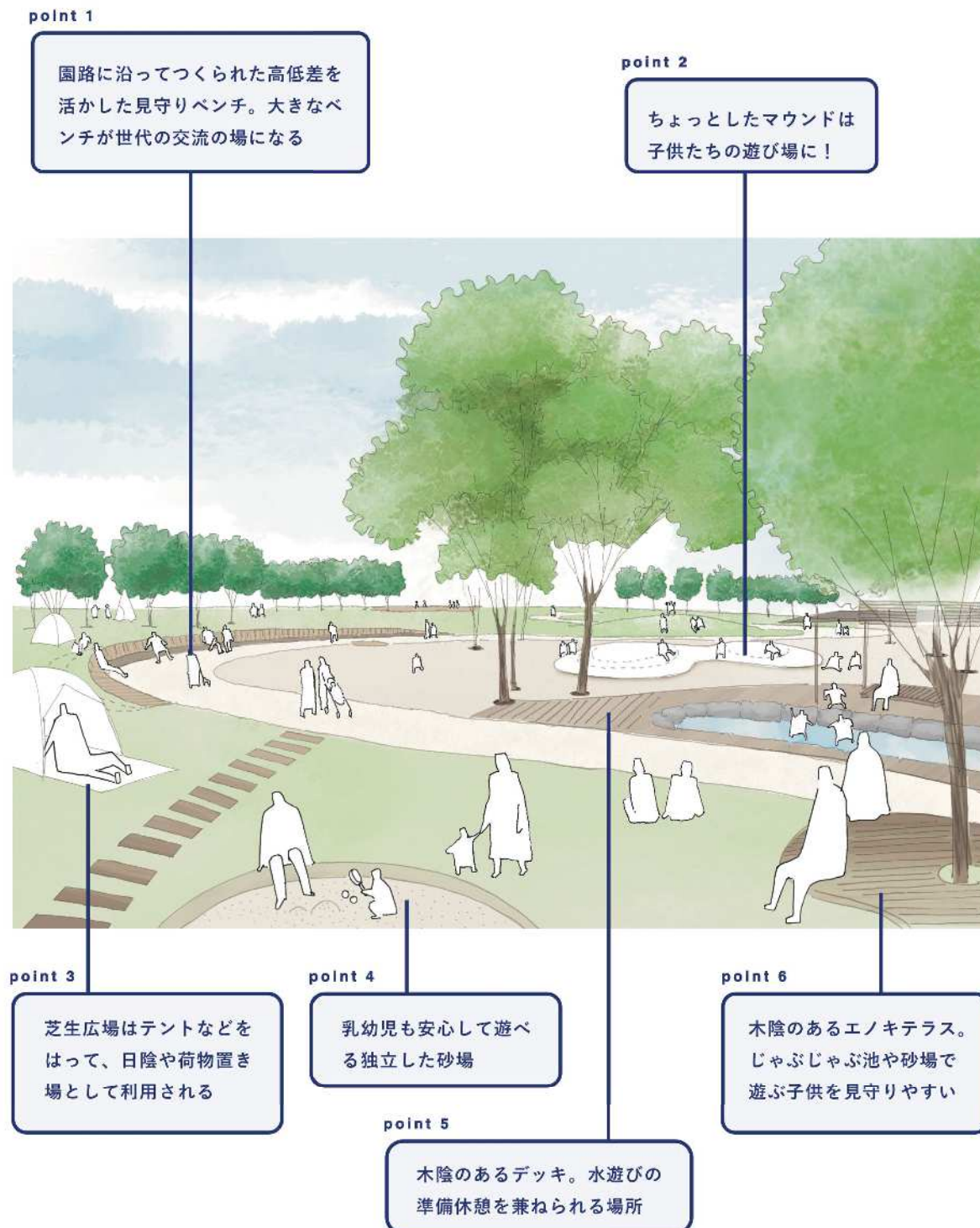
ゾーン D
表現のステージ



ゾーン E
桜ストリート



ゾーンF プレイコート

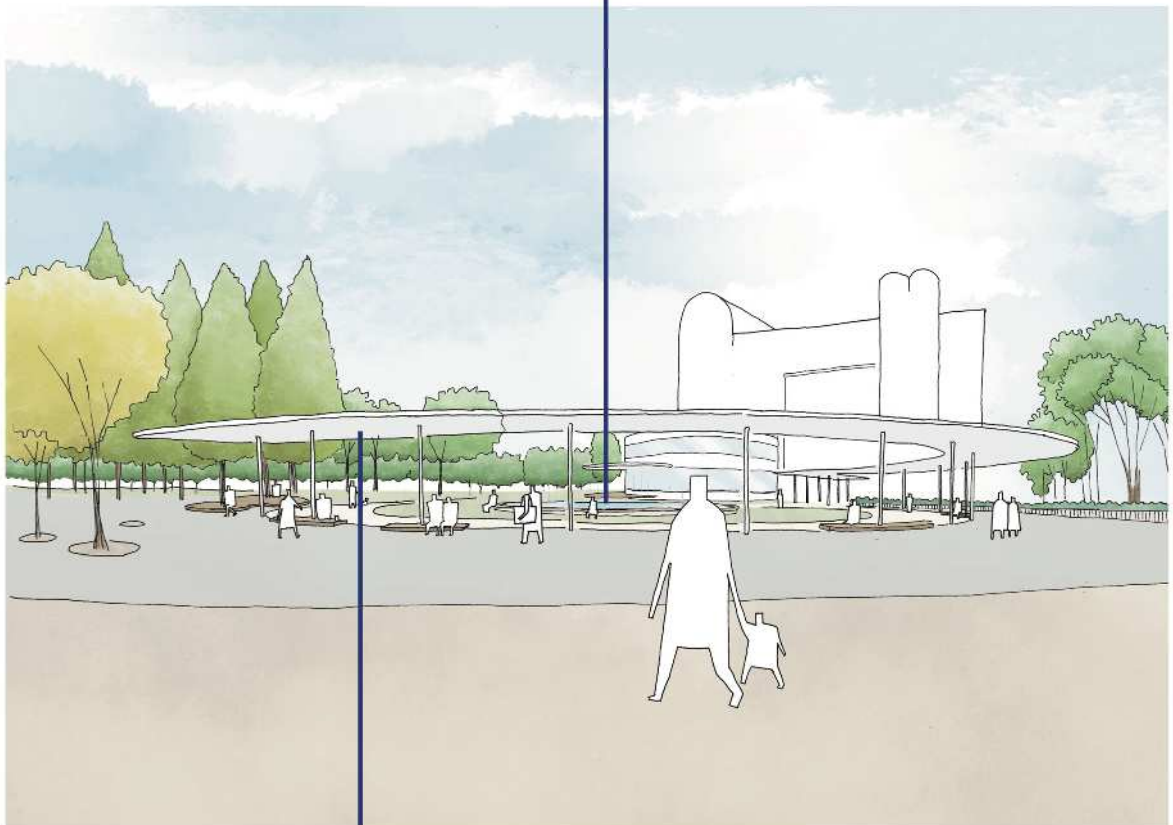


ゾーンH

ブック&パーク(つながりのキャノピー)

point 1

既存の噴水を活かしまわりに日陰をつくりすることで、待ち合わせやくつろぎの場所としてより人がとどまりやすい状況を作り出している

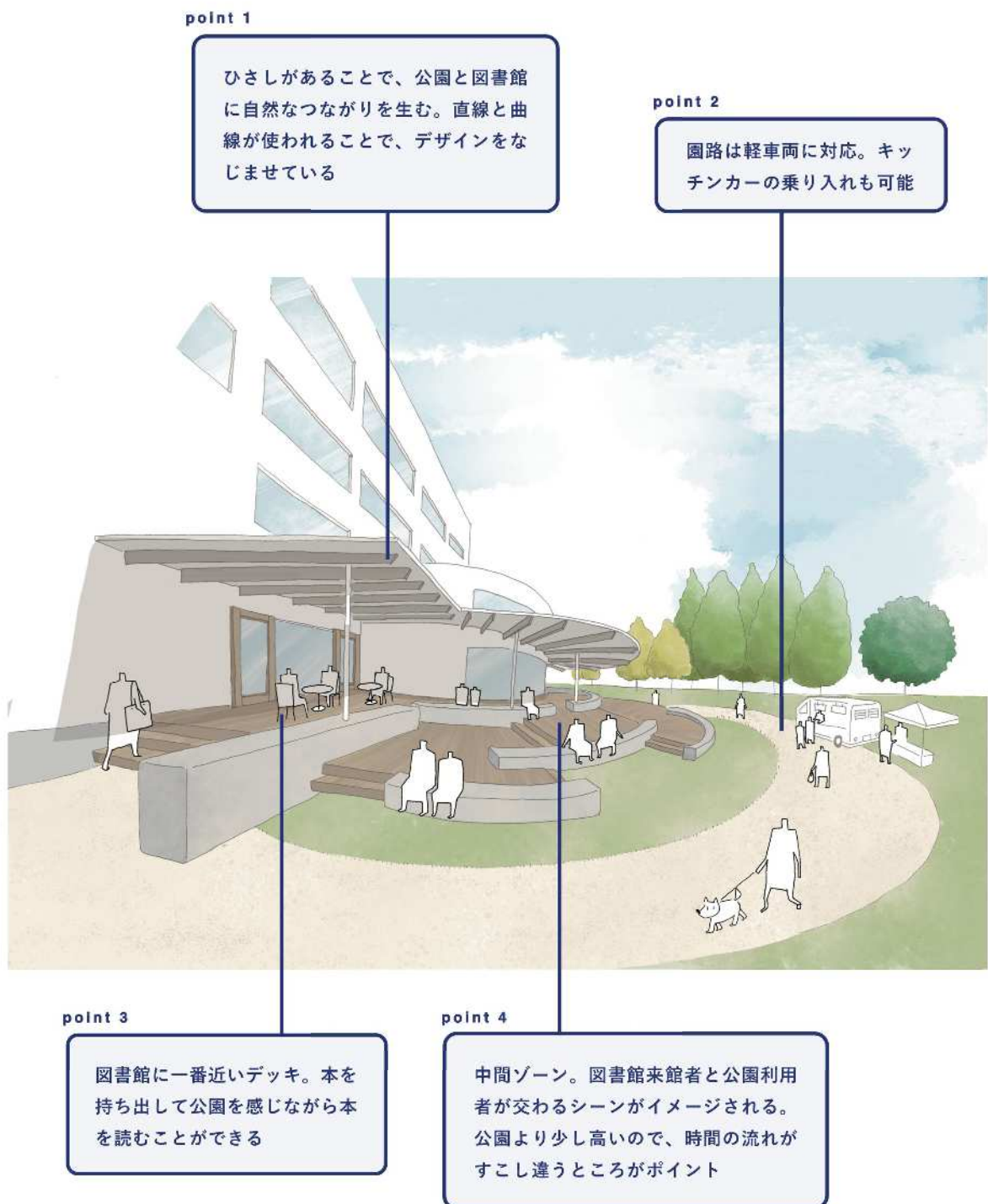


point 2

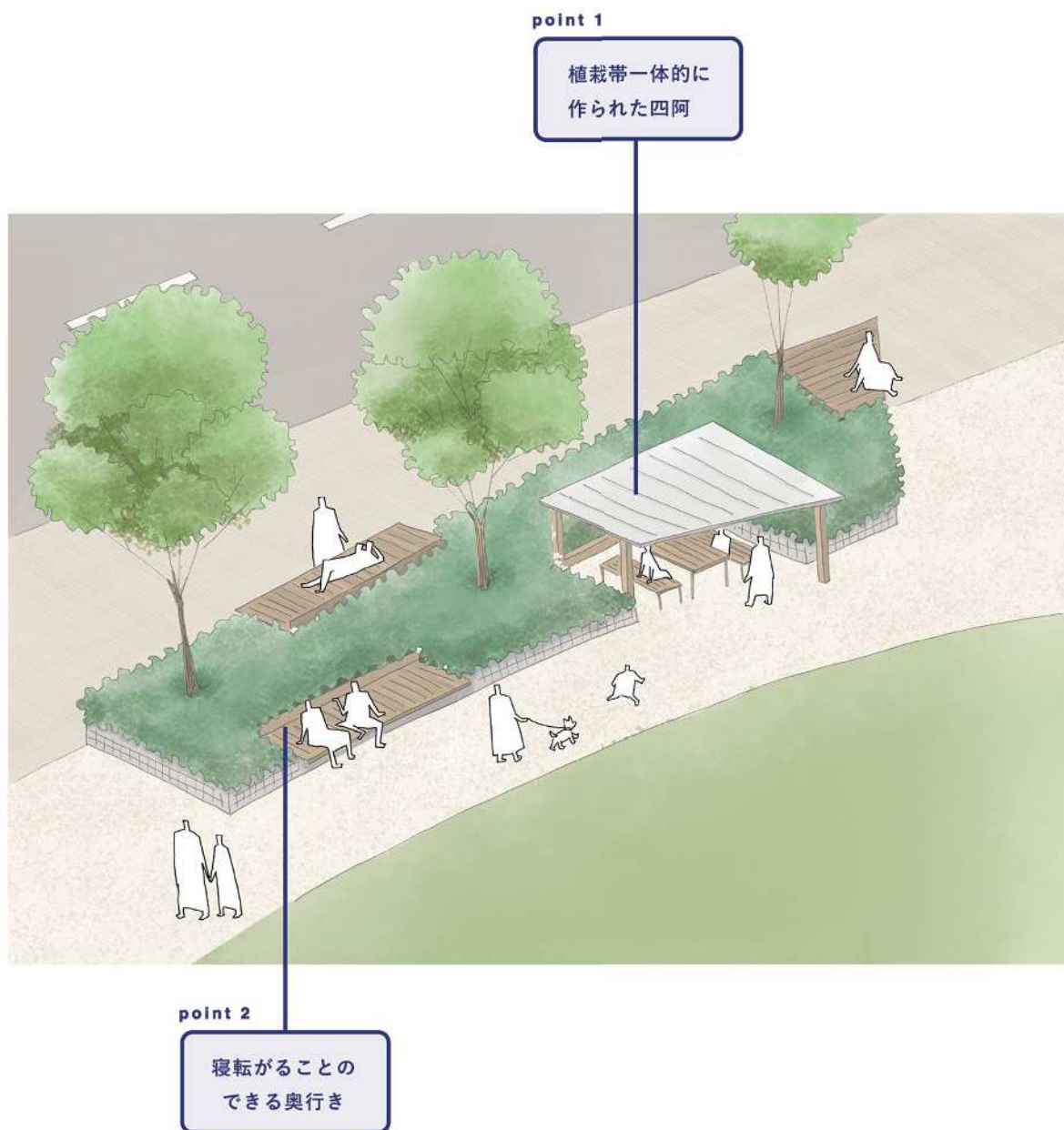
公園の新たな顔としてつくられる「つながりのキャノピー」。ブックテラスと連続したデザインで、園路・公園へいざなう

ゾーンH

ブック&パーク(ブックテラス)



植え込みベンチ



c. 主要施設の方針

1) 全般

- ・今あるもので十分に利用可能なものは可能な限り既存を活かす計画とする。
- ・あらゆる人が公園で気持ちよく過ごせるように、ユニバーサルデザイン、バリアフリーに配慮した計画とする。
- ・都市におけるオープンスペースは、災害時に様々な役割を担う。市民公園は地域防災計画において「一時避難場所」、「自衛隊災害派遣部隊の活動拠点候補地」、「臨時ヘリポートの開設予定地」に位置づけられており、災害発生時に重要な役割を担う場所であることを念頭に計画するものとする。

2) 園路・広場施設

園路計画

i) 外周部について

主用途：公園周辺園路で行われるジョギングおよびウォーキング

方針：機能の向上

- ① 老朽化による表層の剥がれや不陸の改善を行う
- ② 通路幅を見直し、可能な部分を広げ、「休憩できるコーナー」や「トイレ・水場」へのアプローチを考慮
- ③ 既存のものを可能な限り再利用することを前提として、仕上げ材料の見直しを行う。



左：ランニングコースが分かるサイン 右：緑が寄り添うコース（出典：TOKYO MIDTOWN）

ii) 内部園路について

主用途：園内の散歩道、広場と各ゾーンのエッジ

方針：誰もが歩くことが楽しくなる園路設計

- ① 有機的な形状にゆるい起伏を与え、自然を感じる園路空間を創出
- ② メンテナンスやイベント時の車両利用を考慮し、一部を車道仕様とする
- ③ 一部の園路は幅を持たせ、キッチンカーなどの移動販売車の乗り入れを想定しインフラも整備する

- ④ 木陰やベンチ、デッキ広場などを併設し、歩くだけでなく、人やペットの休憩、路上パフォーマンスなど園路そのものにもアクティビティを可能にする計画とする



左：園路に併設されたデッキや樹木 右：園路に沿った起伏とそれを受け止めるベンチ
(出典：yanchep)



左：コンクリート舗装の園路のイメージ

広場計画

主用途：多様な活動に囲まれた公園のアイデンティティである広場

- 方針：①多様な活動を受け入れるために、あえてつくり込まず、一面を芝生とする
②芝生と園路の境目はフラットにつなげて一体感をもたせる（エッジのデザイン）
③枝葉部分は、「既存樹木を活かした木陰スペース」、「築山や起伏をつくり園路や隣り合うゾーンとの視線に変化をもたせる」など、広場空間に変化をもたせ公園に多様な居場所をつくる手がかりとする
④芝生広場については、管理方法によりメリケントキンソウの増殖を抑える



芝生と園路面をフラットにつなげることで一体感入りやすい、使ってよい芝生広場へ



芝生と園路面をフラットにつなげることで一体感入りやすく使って良い芝生広場へ

【参考事例】鶴間公園さわやか広場リニューアル（出典：町田市）



広場のイメージ
樹木の下には人が集まりやすいデッキが作られている

3) 休養施設（休憩所、ベンチ等）・遊戯施設

休養施設

主用途：ベンチ、日よけ、四阿

方針：①素材は木・鉄など自然を感じられるものを基本とし、維持管理を意識した形状や材料選定に配慮する

②単独用途の工作物にとどまらず、複合的に使える柔軟なデザインを検討する

③各ゾーンでの独自性に加え、公園全体として見たときにはデザインに共通性をもたせ統一感のあるものとする

④動線や環境に配慮し、多くの人が利用しやすい位置に新設する



現在単独で園路等に面して設置されている



芝生を中心にくつろげる空間にする

【参考事例】sunset parklet（ベンチ＋遊具＋自転車置き場）



座るだけでなく、登ったり、くつろいだり、自転車置き場にしたりアスレチック感覚で楽しめる

（出典：<https://www.intersticearchitects.com/?project=sunset-parklet>）

【参考事例】Midland railway square

(日よけ空間 (四阿) のイメージ)



(出典(左) : Midland railway square)

(出典(右) : <https://www.s-on-site.com/works/detail.html?id=90>)

【参考事例】紫波町オガール広場

(植栽柁と一体となった四阿のイメージ)



【参考事例】九州産業大学



(出典(左) : <https://architecturephoto.net/93222/>)

(出典(右) : <https://jtcafe.jp/story/index.html>)

【参考事例】岡山大学



〈今後の課題〉

現在ある鉄骨のパーゴラもリノベーションし、日よけ空間とすることを検討する。

遊具施設

スペースの拡張（水路や園路、健康器具によって広場と分断されていた遊びの街角は、広場とつながりを持つ拡張された場）

主用途：こどもの遊び場

方針：①大地と空、自然にダイブするような、こどもたちの身体をダイナミックに使う遊べる空間を目指す

②年齢層に合わせた遊具をつくり、幼児～小学生までが遊べるように計画する

③遊具そのものだけでなく、周辺の仕上げ等安全性に配慮した工夫を行う

- ④アトラクション遊具のような人工的なものではなく、大小の起伏による地形のような遊具や園路に沿った手すりのようなさまざまな高さをもつ鉄棒など、遊び方を限定せず、こどもたちが考えて遊べ、景観上も融合するもの

【参考事例】 国立越後丘陵公園ふわふわドーム（出典：国立越後丘陵公園）



【参考事例】 セイホクパーク石巻

（出典：コトブキ）



左：最高 11m のザイルクライミング



右：乳幼児・幼児向けの「のびのびエリア」

〈今後の課題〉

アーバンスポーツの一つとしてのスケードボードには、パークの作り方（遊び方・難易度）が利用者の層に直接反映されるため、利用者イメージからを含め検討が必要である。



（出典：redshift by Autodesk/ crystal palace summer jam）

4) 修景施設（樹木・噴水等）

樹木

- 方針：①歴史を継承した既存樹木を中心に、極力樹木を残した計画
②公園間や公園外からの見通しの確保
③歩行や視線の妨げとなる樹木等の整理による安全性の確保
④憩いの場としての緑の演出
⑤桜の保存・更新
⑥公園の風格を継承した新たな見どころづくり

〈今後の課題〉

樹木の維持管理については、無駄な剪定や薬物散布を控え、効果的な維持管理の適正化が求められる一方、美観の視点を加え、将来の仕立てを考えた剪定を行えるガイドラインが必要である。



【参考事例】グリーンエーカーパーク



グリーンのファザードのイメージ。
大きな木がゲートのように存在し、心地の良い空間を期待させる。通りから公園の中が直接見えることにより、つい入りたくなる。道路との距離感、高低差のコントロールも計画する。

噴水等

親水施設（噴水、池、水路）は美観の維持を含め、メンテナンス費用が高く、園路改修と合わせて、最低限のものとする。思索の街角の噴水は、市民の憩いの場としてシンボリックに存在していたものと考えられるため、親水性を高め遊べる噴水にアップデートすることを検討する。現状もしくは改修して残す親水施設は「じゃぶじゃぶ池」と「思索の街角の噴水」とする。

噴水について

方針：①噴水の外周部にベンチを設え、噴水周りでくつろげるようにする。

【参考事例】中野四季の森公園（出典：株式会社ウォーターデザイン）



5) 管理施設・便益施設（売店等）

トイレ

方針：①老朽化による劣化および空間の狭隘化を改善

②誰も利用しやすいユニバーサルデザインに配慮

③子連れの利用者が快適に過ごせるようおむつ替えや着替え台などの設置を図るなど、現代のニーズに合ったトイレ水準とする。

④温水洗浄便座など将来的な設備水準の変化への対応を容易にするため、予め電気配線用の管路を備えることとする。

⑤景観に配慮したデザインで誰もがいつでも気持ちよく利用できる環境づくりを推進する。

その他：配置数については、従来通り2箇所とし、親和性の高いゾーンに配置し、ゾーンの機能の向上を図る。

〈今後の課題〉スポーツ利用者のためのシャワースペースおよび更衣室の併設を検討する。

【改修事例】環境配慮型の花見エリアのトイレ

周辺の自然と調和に配慮し、増築部分の構造体を最小限に抑えて、ガラスに覆われた明るく開放感のあるトイレを実現。トイレ内においてもガラス越しに太陽の光と緑の影を感じることができる。また工事の際には伐採された樹木を再利用。（出典：株式会社石本建築事務所）



【新築事例】Public Toilets in the Tête d'Or Park

スロープにより、車椅子やベビーカーでも寄り付きやすいアプローチをつくっている。木材を使用し公園に馴染んだデザインとしている。



（出典：ArchDaily）

便益施設（売店等）

現在、公園内に売店は設置されていないが、アンケート等よりニーズの高さがうかがえる。今後、市民ニーズや管理者の意向を考慮し、運営的な観点も含め設置を検討する必要がある。最近では、利用の検証含め、社会実験などで暫定的に運営した後に、詳細を決定するケースも多い。

【事例】神戸アーバンピクニック（東遊園地）

公園内に社会実験としてカフェ四阿を作り運営。カフェ、図書コーナー、マルシェなどが入り、イベント等でも積極的に利用されている。



6) その他（照明計画・サイン計画）

照明計画

夜間の安全性確保と夜間の演出の2点に配慮した計画とする。

- 方針　：①園路沿いおよび周囲ランニングコースに照明施設を設置し、夜間でも安心して歩ける明るさを確保する。
- ②園路は、昼間の景観を阻害しないデザインとするため、ベンチや樹木を利用した間接照明やサインと連動した照明を原則とし、目に優しく景観に配慮したものとする。
- ③図書館から漏れる明かりとの調和を含め、周辺のデッキにも照明施設を設置する。
- ④公園の明かりが近隣の住宅街にとって眩しくないよう配慮する。

【事例】南池袋公園

ベンチや手摺を利用した間接照明、既存樹である桜のライトアップが計画されている。カフェから滲み出す明かりはリビングの行灯的役割を果たす。芝生広場を介して対面するリボンスロープ周辺は1本のハイポール＋スポットライティングで浮かび上がり演出性と明るさを確保している。中央の広場に照明を設置せず、外周部の光で全体の安心を得ているのも特徴の一つである。



（出典：トミタ・ライティングデザイン・オフィス）

サイン計画

表現方法としては、公園コンセプトにある「こどもに見せたい風景のある公園」として、禁止事項をダイレクトに現わすのではなく、許可事項やバリアフリー対応の案内など、より多くの人に公園利用を促す内容を含んでいるサインを基本とし、利用の可能性が膨らむものとする。

- 方針：①公園や園内のゾーニングをわかりやすく表現するグラフィックデザイン（文字やピクト等）を用いた計画とする。
- ②サイン単独で考えず、既存サイン・モニュメント、ストリートファニチャーや照明、園内の仕上げ素材などと連動することも考慮する。
- ③制作物が景観を阻害しないよう配置や形状、素材、色などを選定することとする。

【事例】コフフン公園

地図や遊び方の説明ボードを建物の同心円上に寄り添うように配置し、静かになる夜間も木立のようなランダムな配置のポールサインで優しく誘導する。昼も夜も風景が和らぐことを考えた照明とサインが一体となったデザインである。



(出典：nendo)

【事例】ニューヨーク市内の公園

園内案内や禁止事項ではない
利用者をホッとさせるサイン
(出典：ニューヨーク市公園局)



4-3 公園の使い方、育て方、伝え方（ソフト計画）

a. ソフト計画の考え方と進め方

市民公園は市と市民が一緒になって創り上げる公園として、計画段階から多様な人を巻き込み、整備後も持続可能な公園として民間の意見も取り入れながら使い方やルールをアップデートできるしくみが必要である。そのために、基本計画の時点で、市民を中心とした公園を使いこなすコミュニティ（＝パークリノベミーティング）を創出し、育てながら、各段階で関わり合うことが必要である。

①基本方針におけるソフト計画の考え方

- ・歴史や時間をつなぐ～利用者とともに公園をアップデートできるしくみをつくる
- ・人（アクティビティ）をつなぐ～公園に多様な活動を受け入れるためのしくみをつくる

ハード整備「つくる（＝デザイン）」に対して、ソフト計画では「つかう」「育てる」「伝える」の3つのキーワードを軸として、活動を推進する。ハードとソフトは、互いに補完し相乗効果をもたらすため、ハードとソフトを同時に考えることによって、公園の質が向上する。

■ソフト計画のための3つのキーワード

「つかう」：ひとりひとりのやりたいに寄り添い、公園のニーズや使い方を発見していく。

既にある条例やルールを使い方に合わせてアップデートしていく。

市民が行政とともに主体的に市民公園を守っていく。

「育てる」：市民公園コミュニティを育む。

公園を使いこなす人、公園に精通したコンシェルジュ、維持管理の担い手など人材を発掘・育成する。

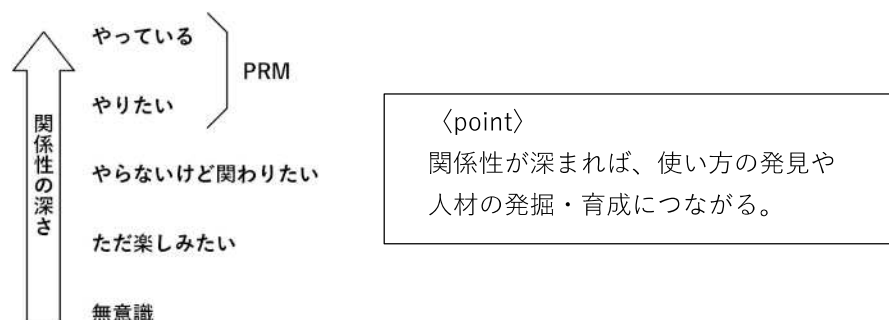
「伝える」：リアルタイムな情報を発信（計画段階から状況を発信し、関心を促す）

多様な人に届く、様々な情報を発信する。

公園そのものがもつ様々な魅力を発信する。

〈市民の巻き込み方〉

公園利用者の意識レベルは、下図のように段階があり、段階に応じた関わり方をデザインしておくことで、多くの市民を巻き込めると言える。また、アンケート結果にもある通り、現状の市民公園を大切に思い、リニューアルを必要としない考え方もある。よって、計画をオープンにし、発信を行うことや、今ある場所等に感謝し、敬意を持ち、引き継ぐことへ配慮する必要がある。



②基本方針におけるソフト計画の進め方

計画段階では行政の動きに加えて、まずは、行政主導で市民とともに創り上げるしくみパークリノベミーティング(以降 PRM)を立ち上げ、ハード整備「つくる」に対してフィードバックを行いながら、実際に公園の利用を高める機運を醸成していく。

運用段階では、民間主導の「つかう」チームを組織化し、PRM と協同し公園をアップデートしていくことが想定される。PRM は、市民を中心とした公園を使いこなすコミュニティであるが故に、持続した活動を行うためのサポートが必要となる。

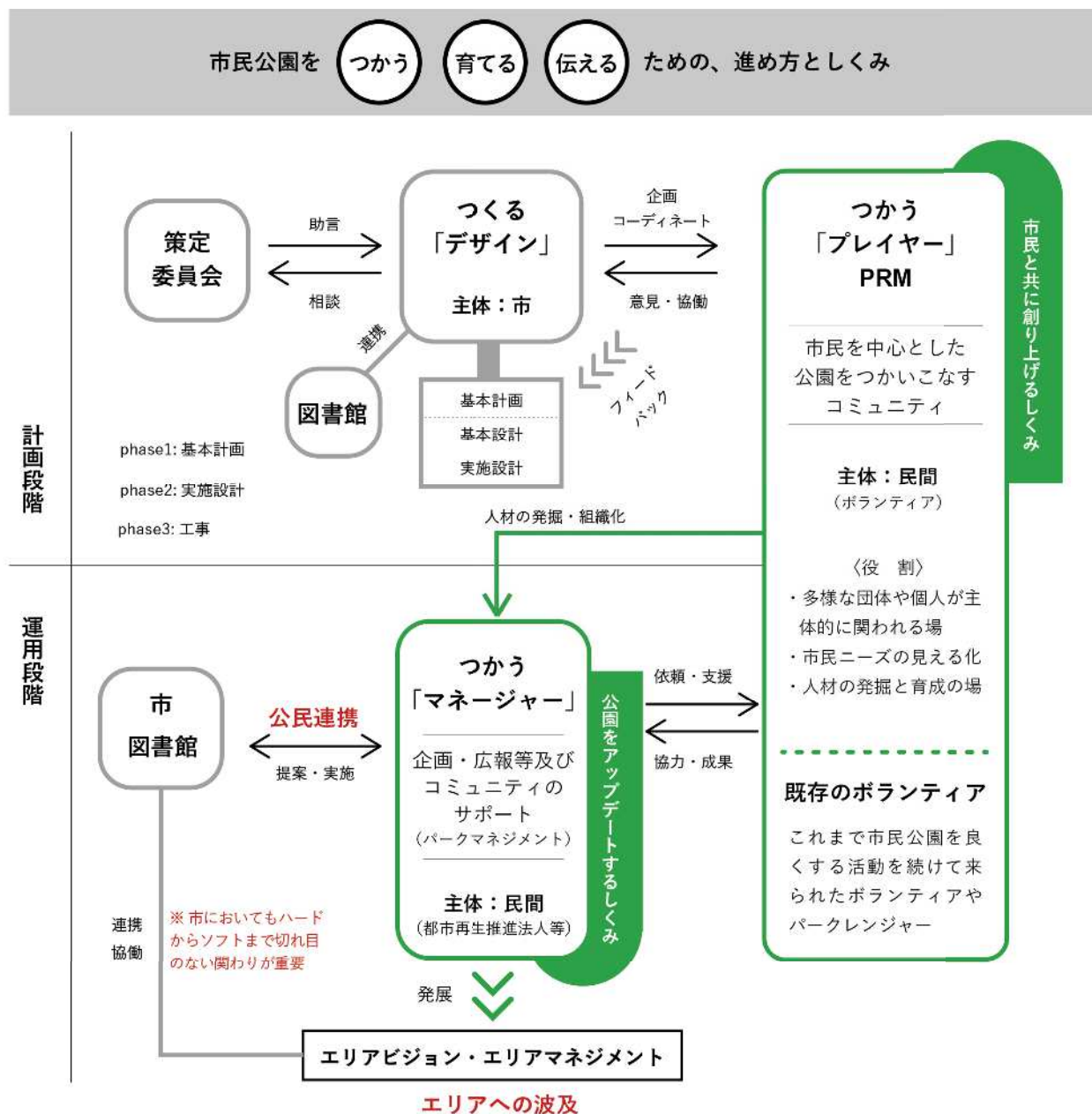
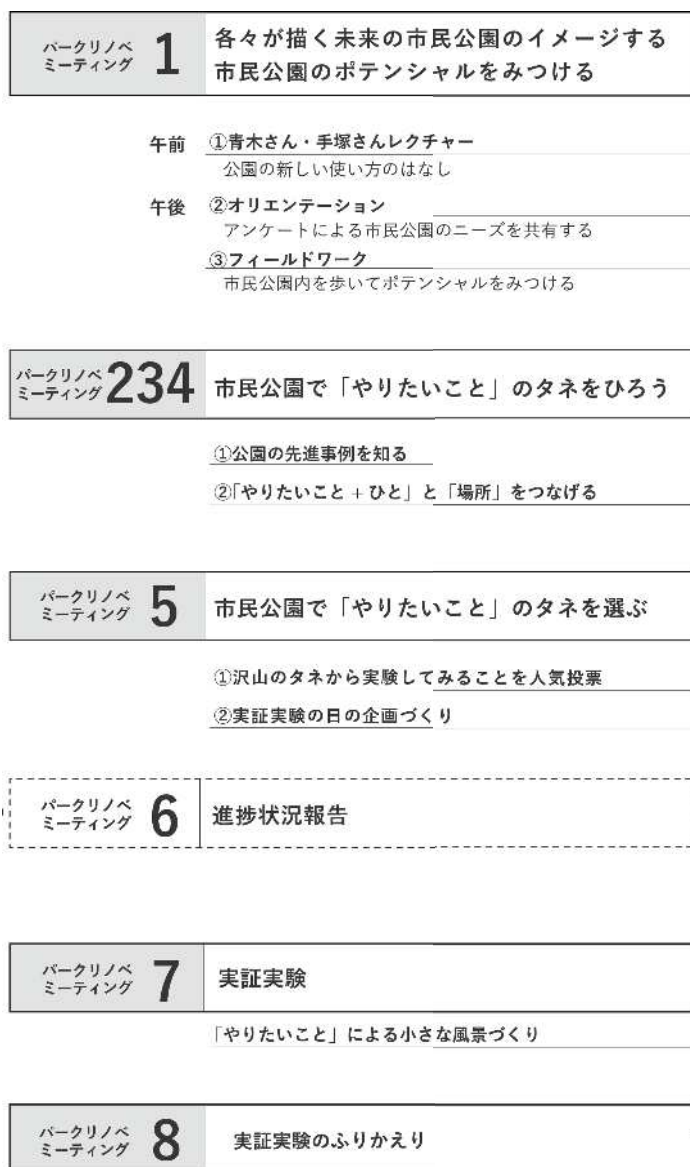


図 1.市民公園をつかう・育てる・伝えるための進め方としくみ

b. 市民と協働するパークリノベミーティング

PRM は、前述のとおり計画から運営まで市民と協働する公園づくりのエンジンである。計画段階では、「市民の意見が反映された市民公園のリニューアル」と「活用と運用を考える市民中心のコミュニティの醸成」の2つを実現することを目指す。

今年度は立ち上げ期として、市民をはじめ出来るだけ多くの人に参加してもらい、個々の公園に対する当事者意識を上げることを目的としている。そのため、PRM は1回で完結するワークショップ形式のプログラムを平日の参加しやすい時間に定期的に5回行った。



「次年度以降」くり返しながら、徐々に人を巻き込む



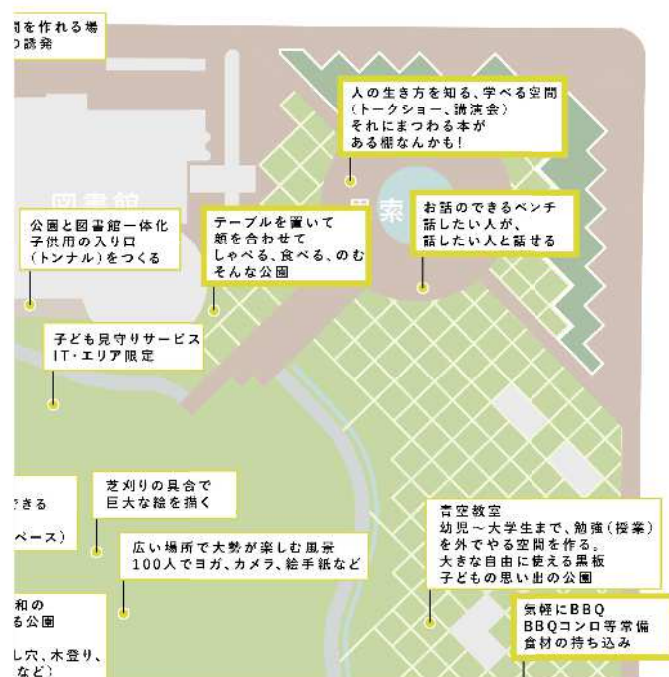
図 2.PRM の今年度の取り組み

PRM の様子

①PRM の目指す姿

(1)市民の意見が反映された市民公園のリニューアル

PRM 参加者の意見は、アンケートの回答に比べ、主体的な意見と捉えることができる。参加者から出された「市民公園でやりたいこと」は、ゾーンごとの使い方の可能性として参考にするだけでなく、詳細設計・工事・運用開始後の各段階においても、設計や運用に活かせるようなポイントをくみ取り、計画にフィードバックすることが重要である。以下にその一例を示す。(第1回から4回のワークの成果は資料編参照)



やりたいことや過ごし方	計画に反映できそうなこと(仮)
人の生き方を知る、学べる空間 (トークショー、講演会) それにまつわる本がある棚なんかも!	・屋外に移動本棚をレイアウトできるスペースを設ける ・移動本棚を計画する
お話のできるベンチ 話したい人が、話したい人と話せる	・会話がうまれるきっかけとなるベンチのデザイン、レイアウトをする。
テーブルを置いて顔を合わせてしゃべる、食べる、のむそんな公園	・テーブルと椅子を設けられる居心地の良い場所を設計する。
気軽にBBQ BBQコンロ等常備食材の持ち込み	・BBQコーナー、またはキッチンコーナーを設ける。

図 3.PRM の意見を市民公園のリニューアルに反映させる方法

(2)活用と運用を考える市民中心のコミュニティの醸成

市民公園は、行政と専門家によりつくられたものを使い手が与えられるという、従来の構図だけではなく、使い手自身がつくる過程に参加し、共用開始後も自分たちのやりたいことを実現できることを目指している。そのため、PRMでは「活用と運用を考える市民中心のコミュニティの醸成」を実現するために、きっかけづくり・主体発掘・主体育成の段階を踏んだ手法をとっている。気軽に参加できるもの（アンケートやレクチャー）からより主体性が求められる機会（実証実験）を設け、参加者の主体性が違っても、関わり方を選び参加できる仕組みとした。

以下に現段階の参加状況を記す。

1. アンケート回答者 810 人
2. レクチャー参加者 49 人
2. フィールドワーク参加者 25 人
3. ワークショップ参加者 vol.1_ 22 人、vol.2_13 人、vol.3_14 人、vol.4_20 人
4. 実証実験参加者 36 人（予定）

上述のように運用開始後も市民が運営に関わるためには、実施設計や工事期間といったハード整備の各段階においても PRM を継続しながら市民参加を定着させていくことと、運営デザインに関する検討を同時に進めながら仕組化していくことが実現の要となる。

【事例】公園の活用と運用を考える市民中心のコミュニティ「新とよパーク・パートナーズ」

計画段階において、行政や専門家を中心とした「つくる」チームと市民を中心とした「つかう」チームを設け、「つかう」チームによる複数回のワークショップと実証実験を踏まえて、「つくる」チームが広場のデザインを行っている。工事期間中には、運用開始後も「つかう」チームが活用や運用に関わることができるよう、運営デザインに関する検討を実施し、ワークショップ・メンバーを中心とした利用者組織「新とよパーク・パートナーズ」を立ち上げている。現在はそのパートナーズが市の担当課と連携しながら広場の運営を行う。

また、運営体制も含めた新しい広場に関する利用のガイドラインを「新とよパーク・使いこなしブック」という形で作成し、その理念を伝える看板も公園に設置している。



図 4.新とよパーク・パートナーズ (Facebook より)



図 5.理念を伝える看板 (著書プレイスメイキング参照)

②実証実験に向けた取組み

立ち上げ期である今年度の PRM の集大成として実証実験を設定した。実験では、これまでの PRM で語られた市民主体の様々な「やりたいこと」の中から、共感を多く得られたものを中心に「未来の小さな風景づくり」として、有志の市民と共に実現することとした。実証実験の目的は以下の 2 点である。

- (1)市民を中心とした市民公園を使いこなすコミュニティの醸成
(主体間の交流・協働／アイディアの見える化による達成感)
- (2)進行中のハード整備計画について市民目線の検証（計画のチェック機能）

実証実験の開催は社会情勢を鑑み見送りとなったが、その準備過程についても計画へのフィードバックが可能であるため、以下に内容をまとめる。

(1)コミュニティの醸成

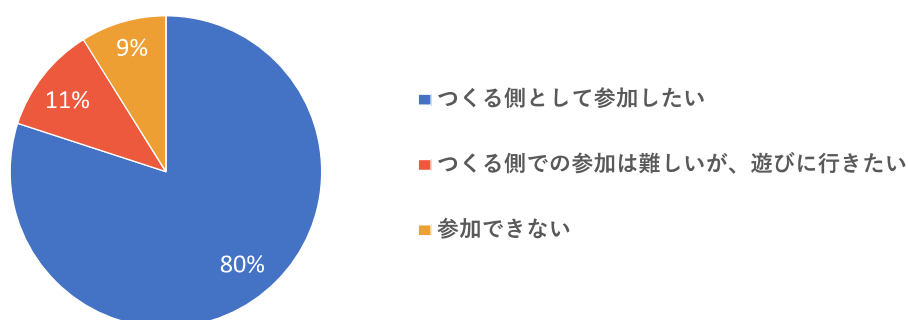
[STEP1：SNS を活用した参加者による SNS グループの立ち上げ]

PRM の全ての過程は SNS を活用したりアルタイムの情報発信によって、計画自体をオープンにし、参加を促すとともに、参加しない人や取組み自体を知らない人にも関わりしるを提供してきた。

ワークショップ形式で開催された 5 回目以降は、これまでの参加者のなかから実証実験を「つくる側」として関わりたい人に対象を絞り、当事者意識を引き出すことを意図した。

第 1～5 回の参加者に対し、「実証実験に対しどのように関わりたいか」のアンケートを行い、以下の結果が得られたため、36 名を対象にお互いが自由に交流・情報共有が出来る場として SNS グループを作成し、計画を進めた。

3月1日の市民公園の未来の小さな風景づくりに、つくる側として参加したいですか？



- | | |
|-------------------------|-------|
| ・つくる側として参加したい | →36 名 |
| ・つくる側としての参加は難しいが遊びに行きたい | →5 名 |
| ・参加できない | →4 名 |



市民公園でやりたいことを話し合う PRM の開催を案内するフライヤー



市民の声がグラフィカルに表現された PRM の実証実験を案内するフライヤー

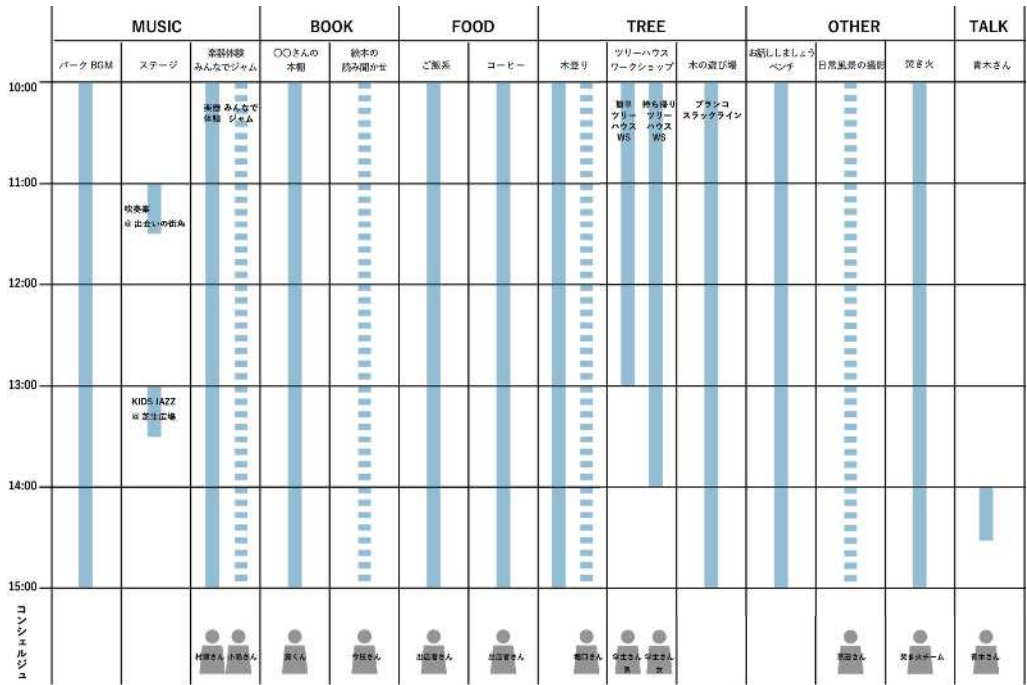
[STEP2：主体性を重視した役割分担]

第5回には、第1～4回で語られた市民主体の様々な「やりたいこと」の中から人気投票により共感を多く得られたものを発表し、実証実験のプログラムおよび実施チームを共に立ち上げた。人気上位となった「やりたいこと」は、公園内での音楽鑑賞・楽器演奏、読書といった文化的な過ごし方であった。

実施チームのメンバーは、主体性を重視し前述の SNS グループ内での挙手制としており、各プログラムのリーダーは、可能な限り参加者（市民）に担ってもらい、事業者が補佐にまわることとしている。今回は、市主催の事業となるため、事業者が詳細の計画を進め、全体の統括を行うが、市民自らのアクションが実現化し、ほしい風景をつくることの楽しさや達成感を実感し、次の動きを誘発することが重要である。

1 位	音楽を演奏する・聴く	(18 票)
2 位	本を読む	(14 票)
	食べる飲む	(14 票)
3 位	遊ぶ	(11 票)
4 位	自然を眺める	(9 票)
5 位	図書館とつながる・図書館が公園に開かれる	(8 票)
	木に登る・アウトドアをする	

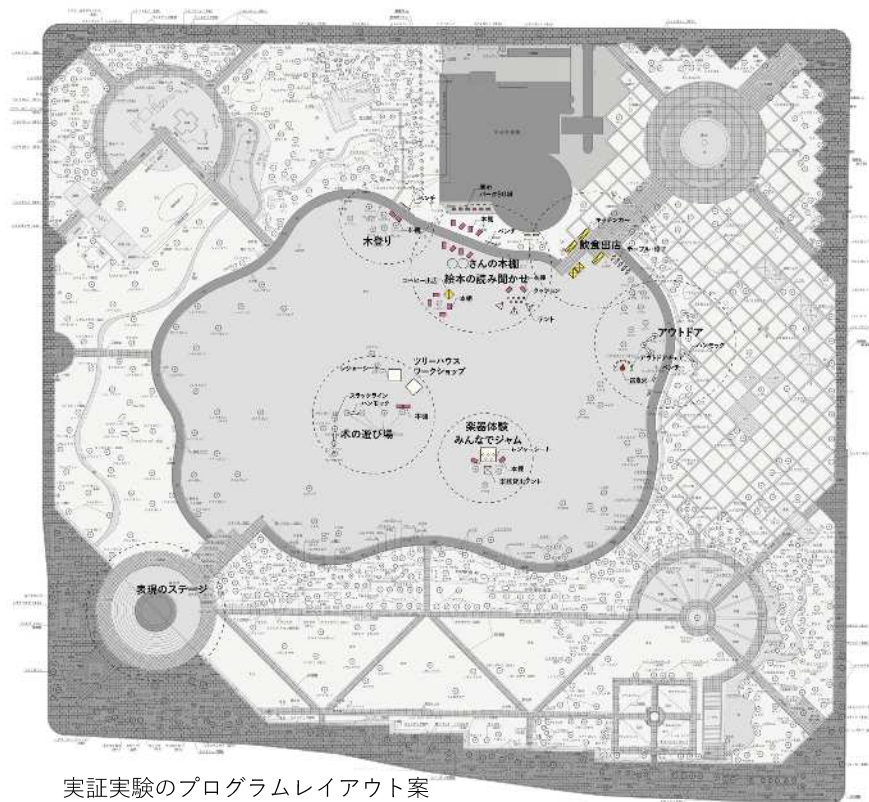
人気投票により共感を多く得られた市民公園でやりたいこと



市民公園でやりたいことをベースにした実証実験のプログラム

(2) ハード整備計画についてチェック機能

第5回 PRM にて決定した「市民公園でやりたいこと」をベースにした実証実験のプログラムは可能な範囲で基本計画のゾーニングに類似する位置に配置し、市・事業者・参加者それぞれの目線で計画のチェックを行うことを目指した。



実証実験のプログラムレイアウト案

実証実験の開催は社会情勢を鑑み中止となったが、準備の過程で得られたハード整備計画に反映させるべき点を以下にまとめる。

・風景のつながり（ゾーンや芝生広場との関係性）

公園そのものが広いため、配置によるプログラム間の物理的距離が大きいと、各プログラムが単独完結してしまい、一斉に行う意味がなくなるおそれがあった。そこで、一連のつながりとして認識できるように、距離の調整やプログラムの間にベンチ等の休憩スペースを設け、場としてのつながりを感じられる計画とした。リニューアルのハード整備においても、ゾーンごとに活動が完結してしまわないように、園路の形状のみならず、園路沿いの程よい距離に人がとどまれる設
いを計画すること（たまり場、ベンチ）、ひとの視線を自然にコントロールし、周辺を意識させる
デザインが重要（ベンチ、築山、樹木）であることが分かった。

・ゾーンの妥当性

南西のステップガーデンは当初アーバンスポーツゾーンとして仮定していたが、「市民公園でやりたいこと」のアイデア出しや、実証実験のプログラム・レイアウト検討の各段階において、より文化的な使い方の共感値が高かった。そのため、実験においても「表現のステージ」として設定することとし、基本計画においても既存の形状を活かしたステージと客席を設ける計画に修正した。

③今年度の PRM の成果と課題

今年度の PRM の実施により得られた成果と課題を以下に挙げる。

(1)コミュニティの醸成

[成果]

きっかけづくり・主体発掘・主体育成の段階を踏むことで、多くの市民をまきこみながら関係性を深めていき、最終的には主体的な立場で実証実験を計画する PRM コミュニティの醸成に至った。

[課題]

- ・期間的な制限から市民の巻き込みは十分とはいえないため次年度以降も定期的な開催が必要である。
- ・参加者の属性は多様であり、こどもから高齢者まで多世代で構成されていることから、SNS のみに頼りすぎず、必要に応じて情報発信・共有の手法を工夫する必要がある。
- ・市民活動の多くは収益構造をもっていないため、備品や広報等にかかる費用を個人で負担することになり、出来ることに限界がある。今後、PRM コミュニティが主体的に活動を継続できるようにするには、費用面等も考慮したサポートを考える必要がある。
- ・参加者の多くは「気軽な関わり」を求めており、顔が見えづらい PRM 全体の SNS グループ内での個人的な発言を避ける傾向がみられる一方、実証実験で構築した共通の話題・課題を持つ顔の見えるプログラムチーム SNS での議論は活発に行われている様子がみられた。PRM の運用としては、コミュニティ内にテーマや趣味趣向ごとの小さなグループを立ち上げて、関わりを深められることが有効であることが分かった。また、小さなグループをフォローし、公園全体の情報の共有・発信をコーディネートする統括者（マネージャー）の必要性も明らかになった。

(2)ハード整備計画についてチェック機能

[成果]

- ・基本計画の作成と利用者目線のつかい方のアイデア出しを同時に進めることで、市民が望む多様な公園の使い方を最大限基本計画に活かすことが出来た。
- ・実証実験(計画)を PRM コミュニティと一緒にを行うことで、市や事業者のみではなく市民目線から基本計画の内容のチェックを行い、計画の一部を市民の声に合わせて軌道修正することが出来た。
(本来ならば、上記と合わせて実証実験の来場者目線からのチェックも出来ることが望ましい)

[課題]

上記のことから、PRM や実証実験はハード整備計画の妥当性をチェックする有効な手段であることがいえ、今後の計画の各段階においても内容のチェック機能として実施していくことが重要である。

④今後(基本計画終了後)の PRM の進め方

- ・SNS グループの継続

現段階では SNS グループを事業者が取りまとめているが、次年度以降も継続させるために市が一度引き継ぎ、その後コーディネートする統括者（マネージャー）を再選定する等の引き継ぎ作業を行う。

- ・定期的な情報共有

現段階の SNS グループは実証実験と一緒につくりあげるために立ち上げられたものだが、イベント開催予定がなくても参加者の関心が薄れないよう、定期的な情報発信や小さなイベントなど集まる機会を設ける必要がある。

c. 波及効果と今後の方向性について

市民公園のリニューアルは、今後のまちづくりを考える上で核となる要素を持ち、市民公園はその舞台となる。その波及効果として、関係人口の創出をはじめ、シティプロモーション、移住定住の促進、近隣の商業活性化、子育てしやすい場の創出など、総合的な政策課題に対するアプローチにもつながる可能性がある。

このように、まちにインパクトを与え、その場から生まれる新たな文化が、エリアの価値や暮らしの質の向上につながるものと考えられる。そのために重要となるのは、「関わりしろ」の多さであり、持続可能な取り組みとするために、互いの強みを活かす公民連携の取り組みとして、まちづくりに発展していく姿を構築すべきである。

路盤面仕上げ凡例

	緑地(芝等)
	透水性インターロッキング舗装
	コンクリート平板ブロック
	タイル舗装
	タイル舗装(既設利用)
	コンクリート舗装

樹木凡例

	岐阜大学時代からの既存樹
	岐阜大学時代の園内からの移植樹
	岐阜大学時代の植物園からの移植樹
	公園整備後の新設樹もしくは移植樹
	居場所のきっかけとする樹木
	伐採する主な樹木(※全てではない)
	植樹する主な樹木(※全てではない)

